384

258

始

I-3F-72

384
258

釜山港

行數	誤	正
二	滿州●又は	滿洲●又は
三	八年●	六年●
三	對外出入貨物●	出入貨物
四	對外出入貨物	出入貨物
箇所		六四頁ノ次ナル貿易船五年對照表ト入換フ
	万人●	千人●
		六二頁ノ次ナル旅客五年對照圖表ト入換フ
一	對照表●	五年●對照表
一一	三年に●	三年
二	領事官●	領事館●
五	會社、●釜山支店	會社釜山支店
三	二十三臾●	二十三叟●
五	二臾●	二叟●
二	手數料●	無手數料
同	銀行兌換券●	銀行券
同	貨幣に●	貨幣さ●
一〇	六三、〇九六●	六三、〇六九●
一二	七三、九七三●	七三、九三七●
九	出航●	出港●
一一	朝船●	朝鮮●
九	升邊●	竹邊

頁數	行數	誤	正
七八	一三	直航路●	直航
七九	二	島外	馬山
同	三	直航路●	直航
八〇	二	十一積●	十一隻●
八四	二	釜●棧橋	棧橋
八五	九	二三一、七八二●	二三一、七八一●
八六	二	三一七、●〇四八	三一二、●〇四八
八七	七	太田●	大田●
八八	四	哈爾賓へ●	哈爾賓
同	同	二、六三四哩	二、六四三〇哩
同	八	牛車組●	主なる牛車組●
八九	一	秩吉●	秋吉●
九一	三	關庫●	機關庫●
九二	一三	日の出●	日ノ出●
九三	三	陸運送部●	陸送部●
九五	作業事項 三	包裝●	改裝●
同	同 七	院行線●	院外線●
九八	四	五島合名	五島合名會社●
奥付	三	編輯兼發行者中野忠雄	釜山稅關
同	八		全部刪除

「釜山港」正誤表

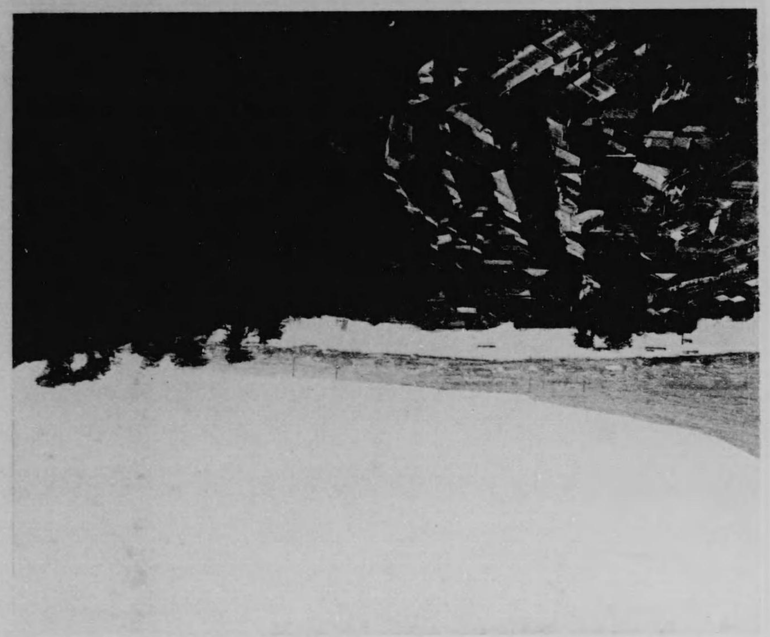
頁數	行數	誤	正
目次 一	一一	海軍●	海事●
二	一	棧橋突堤●	棧橋、突堤
三	五	對外出入貨物	出入貨物
本文 一	一〇	確證●	證憑●
三	二	朝鮮	朝鮮●
四	三	稱へ	攜へ
六	三	新舗●	新舗●
同	一一	大感●	大亟●
七	五	伴合	併合
同	一〇	なる	となる
同	一二	七ケ年●	七箇年
九	四	池之●	池ノ町
一二	九	今や●	「今や」ヲ省ク
同	同	次く	亞く
一三	見出上欄	戸口對照表	戸口●
一四	四	華氏へ●	へ華氏
一六	一〇	とな●	な
同	同	東四	東南●
同	同	其幅員	其の狹搾部幅員
同	同	西南口	南口
一七	五	鵜の瀬	鵜ノ瀬
一七	七	西口●	南●
同	一一	暗礁砂洲	南●
一八	三	煙桂	桂●
同	同	海雲未●	海●
同	六	望臺未●	望●
同	同	地方	北●
同	同	淺瀬にして	淺瀬●
同	八	十依一呎	十●
一九	一二	緣色●	緣●
同	一	桂頭●	桂●
同	六	浮鳳未●	浮●
同	同	浮鳳未●	浮●
同	九	登半多利	登●
同	同	登半多利岩	登●
同	一三	待迅未●	待●
同	同	西口●	南●
二〇	五	西口●	南●
同	七	西口●	南●
同	八	伴せ	併●
二一	八	九十萬	九●

誤	正	頁數	行數	誤	正
西口	南口	一二	五	四口	南口
暗礁砂洲	暗礁、砂洲	同	六	西口	南口
燈桂	桂燈	同	同四分の一	港內港內	四分の一の港內
海雲末	海雲末	同	九	錨地碇泊	錨地、碇泊
墨臺末	望臺末	一三	一三	浮鳳末信號	浮鳳末信號
地方	北方	二四	三	撤廢	撤廢)
淺瀨にりて	淺瀨に依りて	同	五	東方	北東方
十一依一呎	十一呎	同	七	鉄道	鉄造
色	綠色	二五	一〇	浮鳳未	浮鳳末
頭	桂燈	二六	八	海軍	海事
鳳末	浮鳳末	同	一〇	棧山	釜山
鳳末	浮鳳末	同	一二	檢疫、消毒	檢疫消毒、
半多利	登半多利	二七	二	ある	あり
半多利岩	登半多利岩	二八	一二	釜山稅關第二棧橋	釜山稅關第二棧橋
迅末	待迅末	三〇	二	せらるゝ	せらる
日	南口	三二	一一	豫定	豫定
抵末	待迅末	三四	七	監視課浮棧橋	監視課前浮棧橋
日	南口	三六	九	郵便船	郵船
口	南口	同	一二	未た	尙未た
萬	併せ	四一	三	とす	とし
	九十萬坪	同	八		

頁數	行數	誤	正
四二	五	棧橋治●	棧橋治●
四三	一	屋外貨物藏置場	同
同	同	鉄道局	同
四四	四	庫は	倉庫は
四五	六	收容、解除	收容解除
四八	二	二八二、九三一●	二八二、九三二●
同	三	會社會社●	會社●
四九	四	も同し	も亦同し
五一	三	貿是●	貿易●
同	五	貿易價額●	貿易額
同	一一	其の	該
五二頁ノ次三十五年對照表	九	一、四四三、五一五●	一、四四三、五一二●
同	一四	二、九九六、三五八●	二、九九九、三五八
三年對照表	七	三ヶ年●	三箇年●
五三	八	價格●	價額●
五四	一〇	移出	輸移出●
同	八	一、二二三、三九二●	一、二三三、三九二
五四頁ノ次五年對照表	一〇	一九、八五七●	二一九、八五七
同	一一	間●三十二年	同●三十二年
五五	六	價格●	慣額●
五六頁ノ次五年對照表	八	生金	金巾
五八頁ノ次五年對照圖表	五九	表內見出	滿州●又は
六二	二	八年●	六年●
同	三	對外出入貨物	出入貨物
六二頁ノ次旅客五年對照圖表	四	對外出入貨物	收容解除
旅客五年對照圖表	表內卅五箇所	●万人	●千人
六四頁ノ次貿易船五年對照圖表	一	對照表	五年●
同	一一	三年●	六年●
乘船客對照表	二	領事官●	三●
六六	五	會社、釜山支店	領●
六七	三	三十三臾●	二●
六八	五	二臾●	會●
七二	二	手數料	無●
同	同	銀行兌換券●	銀●
七三	同	貨幣に●	貨●
同	一〇	六三、〇九六●	六●
同	一二	七三、九七三●	七●
七七	九	出航●	出●
同	一一	朝船●	朝●
七八	九	升邊	拾●

誤	正	頁	行	誤	正
は	滿洲●又は	七八	一三	直航●	直航
入貨物	六年	七九	二	島外	馬山
入貨物	出入貨物	同	三	直航●	直航●
	出入貨物	八〇	二	十一積●	十一隻●
	六四頁ノ次ナル貿易船	八四	二	釜●棧橋	棧橋
	五年對照表ト入換フ	八五	九	二三一、七八二●	二三一●、七八一●
	千人●	八六	二	三一七、〇四八	三一二●、〇四八
	六二頁ノ次ナル旅客五年對照圖表ト入換フ	八七	七	太田●	大田
	五年●對照表	八八	四	哈爾賓へ●	哈爾賓
	三年	同	同	二、六三四哩	二、六四三●〇●哩
	領事館●	同	八	牛車組●	主なる牛車組
	會社釜山支店	八九	一	秩吉	秋吉
釜山支店	二十三叟●	九一	三	關庫	機●關庫
叟●	二叟●	九二	一三	日の出●	日ノ出
	無手數料	九三	三	陸運●送部	陸送部
換券	銀行券	九五	三	包●裝	改●裝
	貨幣と●	作業事項			
○九●六●九七●三	六三、○六●九●	同	七	院行線	院外線●
	七三、九三七●	同	四	五島合名	五島合名會社●
	出港●	九八	三	編輯兼發行者中野忠雄	釜山稅關
	朝鮮●	同	八		全部刪除
	竹邊●				

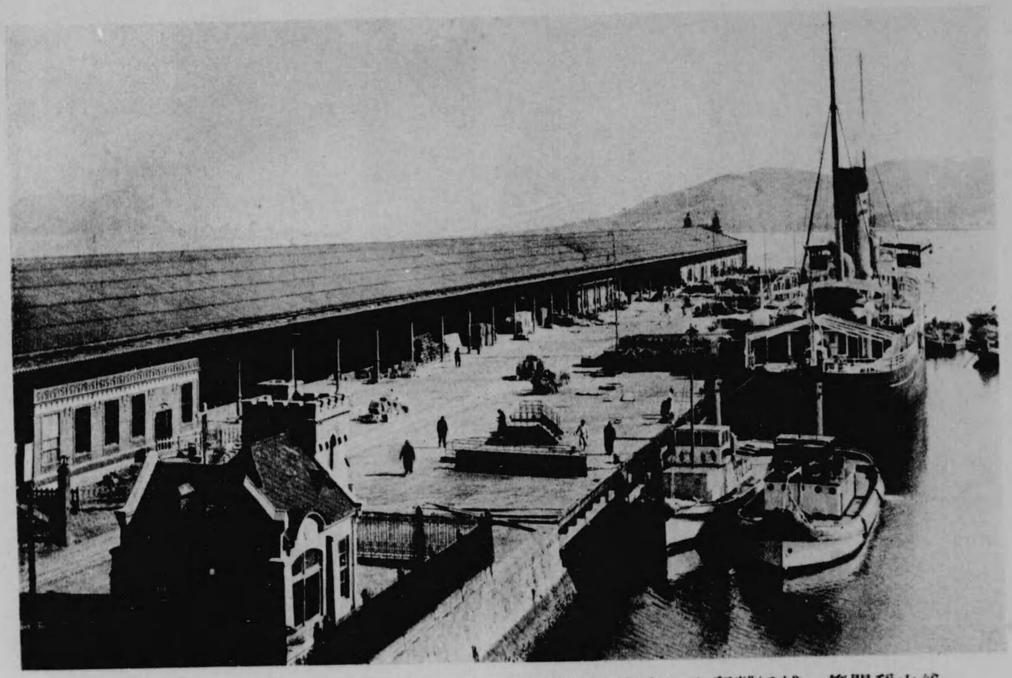
頁數	行數	誤	正	頁數	行數
四二	五	棧橋治●	棧橋沿●	五八頁ノ次五年對照圖表	表內見出
四三	一	屋外貨物藏置場	同	五九	
同	同	鉄道局	倉庫●	六二	
四四	四	庫は	庫は	同	
四五	六	收容、解除	收容解除	六二頁ノ次旅客五年對照圖表	
四八	二二八二、九三二●	二八二、九三二●	二八二、九三二●	六四頁ノ次貿易船五年對照圖表	表內卅五
同	三	會社會社●	會社●	同乘船數對照表	
四九	四	も同し	も亦同し	六六	
五一	三	賀是●	貿易●	六七	
同	一一	其の	該	六八	
五二頁ノ次三十五年對照表	九	一、四四三、五一五●	一、四四三、五一二●	七二	
同	一四	二、九九六、三五八	二、九九九、三五八	同	
五三三年對照表	七	三ヶ年●	三箇年●	七三	
五四	八	價格●	價額●	同	
同	一〇	紗出	輸移出	同	
五四頁ノ次五年對照表	八	一、二三三、三九二●	一、二三三、三九二	同	
同	一〇	一一九、八五七●	二一九、八五七	同	
五五	一一	明三十二年●	同三十二年	七七	
五六	六	價格●	價額●	同	
五六頁ノ次五年對照表	八	生金	金巾	七八	



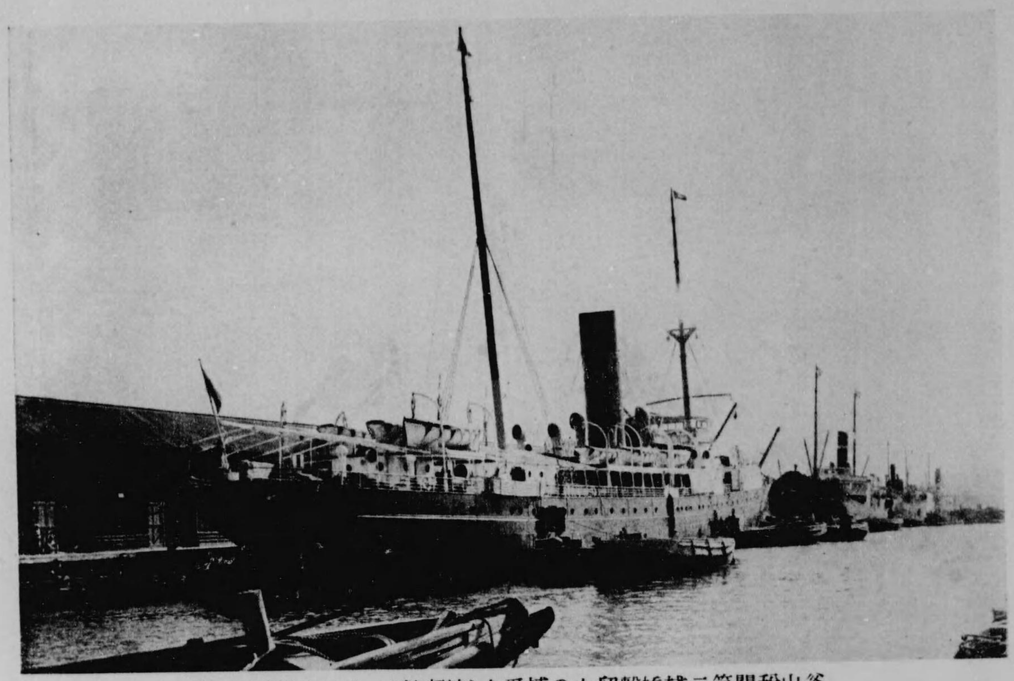
山　　釜

港　　山

釜山稅關



釜山稅關第一棧橋繫留中の高麗丸(總噸三、〇二八噸)及同棧橋沿突堤の上造鐵屋上

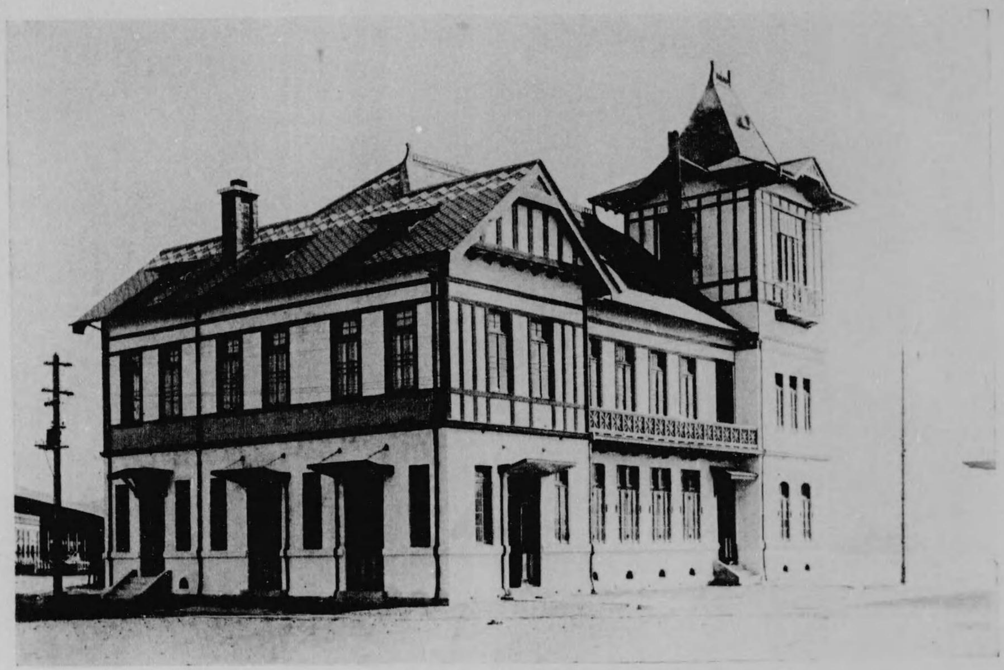


釜山税關第二棧橋繫留中の博愛丸（總噸數二、六三〇噸）外三隻

釜山税關第二棧橋繫留中の汽船より機關車汽罐陸揚中の狀況

釜山税關第二棧橋上の鐵造上屋及鐵道

錨地より見たる釜山稅關第一棧橋及同第二棧橋



釜山稅關監視課

釜山稅關棧橋派出所

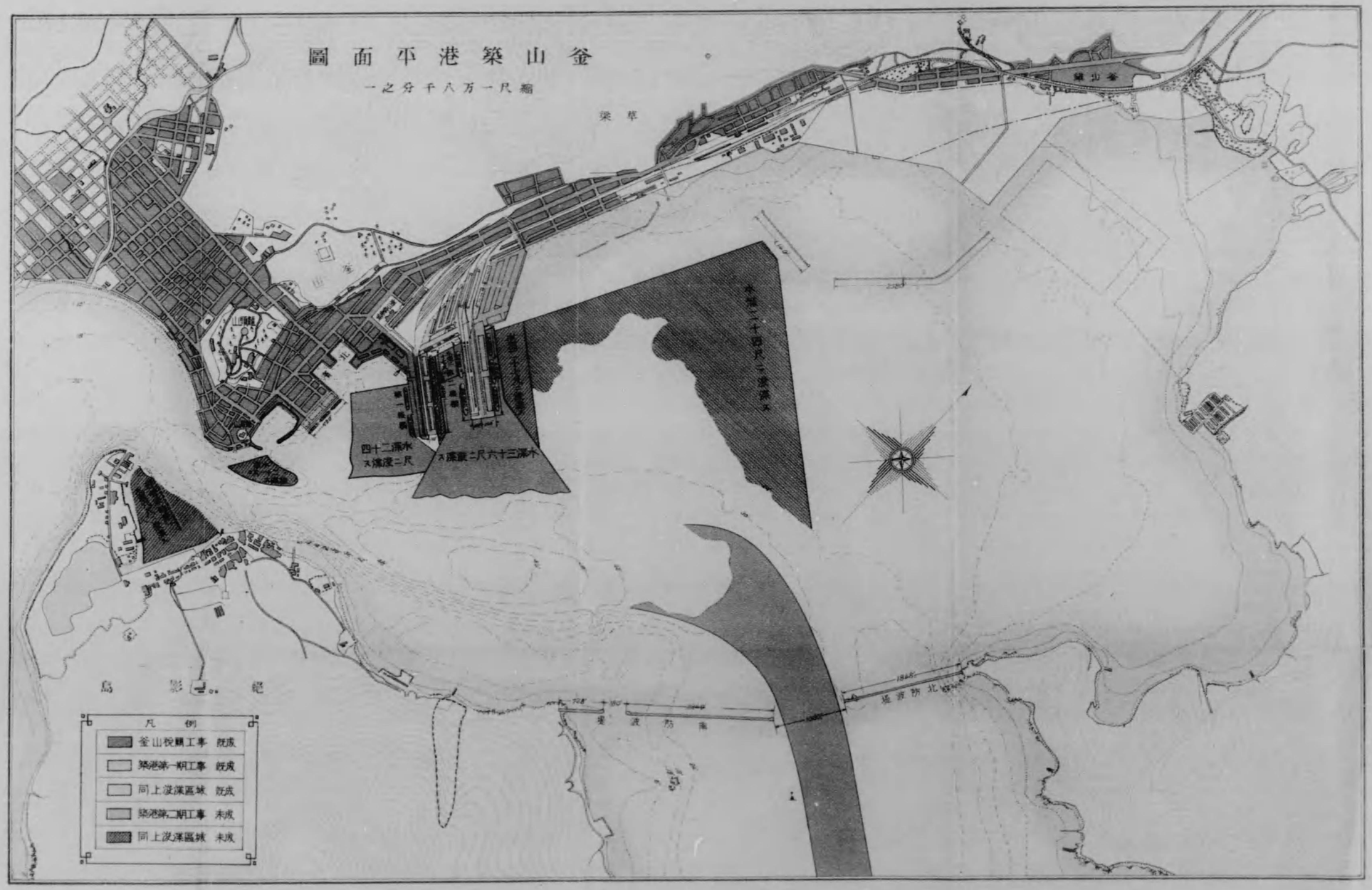
所査檢品製產水關稅山釜

釜山商業會議所

釜山停車場及同旅館

釜山築港平面圖

縮尺一万八千分之一



384-258

釜山港

目次

第一 港灣及其の設備……一
一 總說(沿革、現在設備の概況、戸數及人口)……一
二 位置及氣象……二
三 地勢、港口、暗礁、砂洲及航路標識……二
四 港界、同標識、廣袤、底質、水深及浚渫……二
五 潮位及潮流……二
六 錨地、碇泊制限水域、同標識及繫船浮標……二三
七 海港檢疫……二六
八 海軍關係官廳……二六
九 暴風警報信號及暴風雨標……二八

寄贈本
大正 9.11.3

一〇 棧橋突堤及特設信號……二八
一一 船溜及防波堤……三二
一二 船舶給水……三五
一三 船陸交通場所……三六
一四 荷揚場、起重機及定置衡器……三七
一五 上屋、倉庫及保稅地域內屋外貨物藏置場……四〇
一六 爆發物竝火藥庫、石油貯藏場、貯炭場及貯木場……四八
一七 造船所、乾船渠及曳揚船架……四九

第二 貿易……五一
一 總說……五一
二 外國貿易……五一
三 內地貿易……五二
四 輸移出貿易……五三

五 輸移入貿易……五五
六 通過貿易……五七
七 沿岸貿易……五八
八 入出港外國貿易船及內地間貿易船……六〇
九 對外出入貨物……六二
一〇 來往旅客……六三
一一 貿易關係官廳……六三
一二 貿易關係會社及團體竝稅關貨物取扱人……六七

第三 交通運輸……七一
一 外國及內地航路竝主要各港間浬程……七一
二 沿岸航路及主要各港間浬程……七六
三 港內使用汽艇、艀船、給水船及通船……七九
四 穀物運賃及一般貨物艀賃……八一

五　鐵道及主要各驛間哩程……八三
六　牛車、荷馬車及荷車……八八
七　交通運輸關係官廳及鐵道關係各機關……九〇
八　海運業者、運送業者、稅關構內貨物運搬業者及水先業者……九一
九　人夫供給業者……九五

目次終

釜山港

第一　港灣及其の設備

一　總說（沿革、現在設備の概況、戶數及人口）

沿革　釜山鎭居留地開設以前　釜山鎭停車場の南方永嘉臺及東川河口の中央海に臨みて一小丘あり子城臺（通稱釜山鎭城）と謂ふ往昔其の形釜に似たるを以て釜山と稱す地名是に起ると云ふ此地は古の萇山國（或は萊山國）にして新羅、高麗各朝を經て李朝に至り始めて鎭を置き其の後幾多の變遷あり抑々邦人の本港に往復せしは神功皇后の新羅王城に入り給ひし時（距大正八年『以下倣之』一千七百十九年）其の先鋒の一隊は確に本港に上陸せりと推定し得へきものあれとも確證の據るへきものなく下つて白河天皇永保二年（八百三十八年前）對馬國守

船を高麗に遣し貿易をなせりと傳へ其の地點明かならざれとも或は本港に交通せしにあらさるか其の後鎌倉幕府を亡命せし朝夷奈三郎義秀は順德天皇健保元年(七百九年前)對馬佐須奈より絶影島に渡來したるか終に住民の爲に殺害せられたりと傳へらる今日同島洲岬に朝比奈神社あるは之か爲なりとそ要之往古の事跡漠として今俄に斷すへからす

第一次釜山鎭居留地時代　文永及弘安に於ける元寇の後我國民は外征的氣慨欝勃として抑へ難く遂に所謂倭寇となり朝鮮及支那の邊海を脅威せしか後村上天皇正平二十三年(五百五十二年前)對馬守宗經茂使を遣して產物を高麗王顓に贈り高麗王も亦使をして釜山より米一千石を贈らしめ斯くて和好を修め東萊縣釜山浦(一に富山と記し邦人は之を丸山と稱せり今の釜山鎭なり)熊川郡薺浦及蔚山郡塩浦の三浦を開きて貿易場となし邦人の在留を許せり之れ實に本港に於ける

日本人居留地設置の嚆矢なりとす後幾何もなく李成桂高麗朝に代つて朝鮮に令するに至り倭寇猶止ます隣交何時しか中絶せり

第二次釜山鎭居留地時代　莊憲王の代韓廷使を足利將軍義勝に遣し倭寇を禁し更に通商を開かんことを請ふ義勝乃ち對馬の守宗貞盛をして通商を議せしめ更に三浦を開かしめ本港の在留者を六十戸に定めしむ時に後花園天皇嘉吉三癸亥年(四百七十七年前)にして之を嘉吉條約(或は癸亥條約)と稱す後柏原天皇永正庚午年(四百十年前)釜山浦の邦人釜山僉使の虐待に激昂し薺浦の在留民と相謀りて釜山城を攻め僉使を殺害し次て熊川城を陷る韓廷乃ち大兵を派して之を鎭定せしむ兩浦の邦人衆寡敵せす鄕に歸り塩浦の在留人亦變を聞きて撤退し隣交再ひ斷絶せり之を三浦の亂(或は庚午の變)と謂ひ嘉吉三年より此に至る六十八年なり

薺浦倭館時代　後二年(永正九壬申年四百八年前)にして和議成り館

を薺浦に設け通商舊に復したれとも釜山浦及塩浦には邦人の在留を禁止せり之を壬申條約と謂ふ後奈良天皇天文十年(三百七十九年前)薺浦の邦人事を稱へて鮮人と私鬪す韓廷前年のことあるを以て大に怒り邦人を追ふて在留を許さす之を薺浦の變と謂ひ隣交三度斷絶せり永正八年より此に至る三十年

釜山鎭倭館時代　此に於て足利將軍義晴は使を恭僖王に遣して邦人三浦在留の復舊を求めしも王聽かす漸くにして館を釜山浦(今の釜山鎭)に移すを諾し薺浦及塩浦の開港を退けたり館所を本港に設けたるは之を以て濫觴とし第一次及第二次居留地時代には只邦人の在留するに止まれり時に天文十三年(三百七十六年前)なり其の後豐公の征韓となり後陽城天皇文祿元年(三百二十八年前)四月十三日先鋒小西行長本港牛巖里(移出牛檢疫所々在地)に上陸して釜山鎭城を陷れ爾來慶長三年(三百二十二年前)に至る七箇年の征戰に依り隣交四度斷絶せり

天文十三年より此に至る四十九年

古館倭館時代　德川氏の時代となるや將軍家康對馬守宗義智を召して隣交の復舊を議す義智乃ち家臣を朝鮮に遣すこと四次慶長十四己酉年(三百十一年前)に至り公買、求請及開市の三事を約し倭館を開雲浦(諸書に豆毛浦とあるは誤にあらさるか豆毛浦は今の草梁にして開雲浦は今の古館なり)に設け貿易舊に復せり之を己酉條約と稱す然れとも同所は水淺くして船舶の碇泊に便ならさるか故に宗氏は後西院天皇萬治元年(二百六十二年前)以降屢々使を遣して館を從來の地(釜山鎭)に移さんことを求むれとも許さす靈元天皇寛文十一年(二百四十九年前)津江兵庫之助成太第五次交渉使として又之を求む應せさることは舊の如し兵庫の滯在中年を同ふして宗氏の正使復來り兩人交々移館のことを促して已ます一日兵庫頓に病て卒す翌十二年第七次交渉使仁位孫右衞門を遣し復重ねて之を求むるに及ひ翌延寶元年(二百四十

七年前漸くにして館を草梁項(今の釜山)多太浦、熊浦の一に移すことを容れ釜山鎮移館は之を許さす移館交渉開始以來使を派すること七年を閲すること十六宗氏の苦心想ふへきなり乃ち草梁項に新舗の工を起し延寶六年(二百四十二年前)之に移れり慶長十四年より此に至る七十年

釜山移館以後　移館以前の草梁項は蘆荻海邊に滿ち松峴山(今の龍頭山)の東麓に鮮人漁家二十餘戸あるに過きさりしと謂ふ館は周圍僅に約一千二百間面積概算八萬四百坪繞らすに障壁(明治九年撤去今其の片影を認めす)を以てし三面に廓門を設け官廳、商店、倉庫等を併せ百五十棟を出てさりき古來日鮮兩國修交通商の事は宗氏に於て專ら之を管掌せしか明治五年八月に至り日本政府は外務大丞花房義質を遣して東萊府使に會商せしめ日韓通商の希望を述へ官吏を倭館に駐劄せしむ明治九年二月二十六日日韓修好條規成り同年十月本港を開港

し同十年一月三十日釜山港居留地借入約書調印せられ日本政府は此に管理廳を置き同十三年領事館と改稱し韓廷は同十六年監理を置きて開港事務を掌らしめ日本人民貿易規則によりて同年十一月三日海關を開廳し同三十九年監理を廢して東萊府を草梁に置く同三十九年日本政府は領事館を廢して理事廳となし同四十三年八月日韓伴合の約成るに及び同年十月東萊府を廢して釜山府と改稱し同時に海關を改めて稅關と稱し以て今日に及へり

現在設備の概況　釜山港は明治九年十月の開港なり爾來港灣は殆と自然の儘に放置せられ其の設備極めて幼稚なりしも貿易の逐年隆盛なるに及ひ政府は本港築港の計劃を立て明治三十九年以降五箇年繼續事業に於て百四十八萬八千圓を費し釜山稅關工事と稱する稅關改築其の他の應急的海陸聯絡設備を施し更に明治四十四年以降七ヶ年繼續事業として工費三百八十二萬四千六十圓を以て各種の港灣設

備を施工し大正六年に至り陸上設備の爲に更に十二萬圓を追加し今大正八年を以て完く其の工を終れり之を釜山築港第一期工事と稱す然るに本港近時の發展は頗る顯著にして到底今日の設備に甘んすへからさるものあるを以て更に第二期築港計劃を定め大正八年以降六箇年繼續事業たる海陸設備の擴張、錨地の浚渫、東口防波堤の築造等に工費豫算八百五十九萬二千圓を計上し尙別に之か附隨工事として豫算五十八萬圓を以て沿岸貿易用たる北濱海岸繫船設備及絶影島海岸船溜浚渫等を施工せんとす右の外民營事業としては埋築工事及棧橋造營等あり今官民兩營を通し其の主なる工事を揭くれは左の如し

北濱埋築工事　北濱埋築以前の本港東部海岸は地積極めて狹隘にして海水直に舊草梁街道及本町通の直下に迫り全く市街發展の餘地なかりしか此の海濱一帶を埋築して新市街地たらしむる目的の下に釜山埋築株式會社創立せられ其の第一期工事に於ては明治卅五年より同卅七年に亘り三萬二千六百二十七坪を第二期工事に於ては同四十年及翌四十一年に八千七百四十七坪(合計四萬一千三百七十四坪)を埋築せり現今の釜山停車場敷地の一部及其の以南市街地即ち高島町、岸本町、仲ノ町、大倉町、埋立新町、池之町及佐藤町は皆此の地域に屬す

稅關用地埋築工事　稅關敷地及其の他の施設に充當する爲め明治三十九年以降釜山稅關工事に於て北濱埋築地の北端一萬四百餘坪の海面を埋築せり其の一部は即ち第一棧橋沿突堤にして現行鮮滿急行列車の發着する所、次て第一期築港工事に於て明治四十四年以降同突堤基部鐵道用地前面に於て一萬六千八百十坪を埋築し陸上設備施設の地域に充て其の地先に第二棧橋を築造せり而して第二期築港工事に於ては更に同棧橋基部北側に沿ひ約一萬四千四百坪を埋築し上屋倉庫用地たらしむべき計劃なるを以て同工事竣工せは稅關用地は約四萬二千坪に達すへし

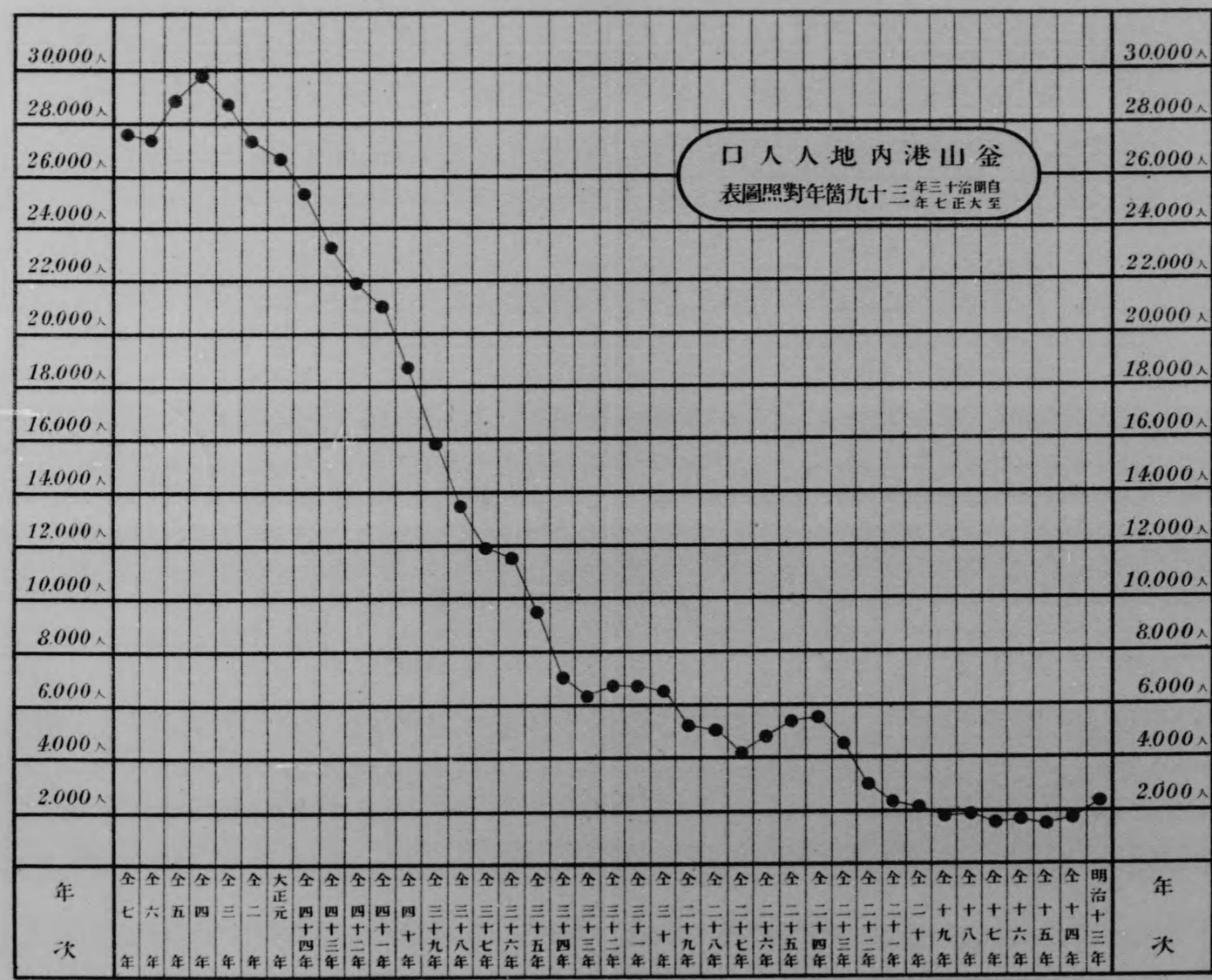
鐵道用地埋築工事　釜山停車場廳舍以東の鐵道用地二萬二千五百六十九坪は明治四十年より翌四十一年に亘り鐵道當局に於て埋築したるものなり

鑿平工事　本港の發展は其の市街地を漸次草梁釜山鎮方面に擴張する必要に迫られたれとも釜山停車場に密接する營繕山及碧波山(一名領事館山共に標高百三十尺)は獨り此の必要を阻止したるのみならす釜山と草梁方面との交通を妨くるものなるを以て釜山居留民團は明治四十二年より同四十四年に亘り政府保障の下に工費九十九萬二千三百餘圓を支出して兩山を鑿平し其の土石を以て草梁停車場附近海面を埋築し新に市街地四萬五千七百八十一坪を得街路は之を幅十二間として人道及車道を設けたり東高砂町、西高砂町、榮町自一丁目至十丁目、相生町及藏前町自一丁目至五丁目は即ち此の地域に屬す

薩摩堀埋築工事　往年釜山居留民團は絶影島薩摩堀の大部及其の

明治四十二年より同四十四年に亘り政府保障の下に工費九十九萬二千三百餘圓を支出して兩山を鑿平し其の土石を以て草梁停車場附近海面を埋築し新に市街地四萬五千七百八十一坪を得街路は之を幅十二間として人道及車道を設けたり東高砂町、西高砂町、榮町自一丁目至十丁目、相生町及藏前町自一丁目至五丁目は即ち此の地域に屬す

薩摩堀埋築工事　往年釜山居留民團は絶影島薩摩堀の大部及其の



釜山港內地人人口自明治十三年至大正七年三十九箇年對照表

年次	人口	年次	人口	年次	人口
明治十三年	二、〇六六人	明治二十六年	四、七五〇人	明治三十九年	一五、九八九人
同十四年	一、九二五	同二十七年	四、〇二八	同四十年	一八、四八一
同十五年	一、五一九	同二十八年	五、〇三五	同四十一年	二一、二九二
同十六年	一、七八〇	同二十九年	五、六五五	同四十二年	二一、九二八
同十七年	一、七五〇	同三十年	六、一八五	同四十三年	二三、二七八
同十八年	一、八九六	同三十一年	六、三三六	同四十四年	二五、二五二
同十九年	一、九五七	同三十二年	六、三二六	大正元年	二六、五八六
同二十年	二、〇〇六	同三十三年	六、〇九七	同二年	二七、六一〇
同二十一年	二、一三一	同三十四年	七、〇二九	同三年	二八、二五四
同二十二年	三、〇三三	同三十五年	九、六九一	同四年	二九、八九〇
同二十三年	四、三四四	同三十六年	一一、三八八	同五年	二八、九四二
同二十四年	五、二五四	同三十七年	一一、九九六	同六年	二七、七二六
同二十五年	五、一一〇	同三十八年	一三、三六四	同七年	二七、八九五

附近海面合計六萬千五百三十坪を埋築し帆船々溜荷揚場、其の他漁業上の諸施設を加へんことを計劃せしか後其の經營を個人に讓り同人は明治四十四年を以て工を起したれとも幾許ならすして之を中止し今尙放棄の狀態にあり

釜山鎭埋築工事　本港の發展は以上數種埋築工事の竣工を見るも尙市街地の狹隘を感するものあり卽ち朝鮮起業株式會社は古舘より釜山鎭に至る海面四十萬坪の埋築を計劃し大正元年より同六年に亘り第一期工事十三萬四千坪の埋築を了し他は第二期(十七萬坪)及第三期(九萬六千坪)工事として逐次施工すへき豫定なり

舊棧橋基部埋築工事　第二期築港工事附隨工事に於ては舊棧橋基部北濱海岸二千四百十五坪を埋築し其の地先に沿岸貿易船用棧橋を架設せんことを計劃せり

舊棧橋及沿岸貿易船用棧橋　玆に舊棧橋と稱するは元釜山棧橋株

式會社棧橋を謂ふ同棧橋は鐵造にして長百間幅五間半明治三十九年之か使用を開始し第一棧橋架設以前に於ては主として關釜聯絡船を、第一棧橋成るに及ひては主として沿岸貿易汽船を繫留せしめ內外の貿易に献貢する所極めて大なりしか維持艱難なる理由を以て大正七年之を撤廢せしかは沿岸貨客の不便尠からさるに至れり此に於て第二期築港工事附隨工事に於ては同棧橋基部海面を埋築し之に沿ひて長百二十間幅六間の鐵筋混凝土造片棧橋を設け一千五百噸級の沿岸貿易船三隻を同時に繫留することを得せしめんとす

戸數及人口 今や本港は京城に次く大市なり最近二箇年の戸口對照表並明治十三年以降大正七年に至る三十九箇年の內地人人口對照圖表左の如し

釜山府戸數及人口二年對照表

年次 / 戸 / 人種別	大正七年 戸數	大正七年 人口 男	大正七年 人口 女	大正七年 人口 計	大正六年 戸數	大正六年 人口 男	大正六年 人口 女	大正六年 人口 計
內地人	六、九九三	一四、一五一	一三、七四四	二七、八九五	七、一七七	一四、一二六	一三、六〇〇	二七、七二六
朝鮮人	八、〇七二	一八、〇二三	一七、四六〇	三五、四八三	七、五五六	一七、四二三	一六、一六六	三三、五七八
支那人	四五	一五一	三六	一八七	四七	一八〇	三一	二〇二
其他の外國人	三	一〇	一二	二二	一〇	一〇	一二	二二
合計	一五、一二三	三二、二三五	三一、二四二	六三、五六七	一四、七九三	三一、七一八	二九、八一〇	六一、五二八

二 位置及氣象

位置 釜山港は朝鮮半島の南尖端北緯三十五度七分東經百二十九度五分に位し對馬海峽西水道に面して對馬の北角を距ること北西僅に三十浬なりとす

氣象 本港に於ける最近十箇年の氣象を觀るに冬季の寒威は東京

より稍々烈し然れとも平均溫度二度八分(華氏四十度二分)にして鮮內各地中氣溫最も高く其の最低氣溫は概ね二月上旬に起り平均零下七分(華氏三十度七分)にして低極は大正八年一月に於ける零下十六度五分華氏(二度三分)なり又夏季の暑熱は横濱より烈しからす平均二十五度九分(華氏八十一度八分)にして鮮內各地中氣溫最も低く其の最高氣溫は多く八月中旬に起り平均三十二度(華氏八十九度六分)にして明治三十九年七月二十七日に於ける三十三度六分(華氏九十五度七分)を以て高極とす而して全年の平均は十四度六分(華氏六十一度五分)にして大阪と伯仲す降水量は鮮內第一なるに拘らす晴天日數最も多く雨季は四月より八月に至り二月最も乾燥し霜雪を見ること稀なり全年の主風は北にして夏季は偏南風冬季は偏北風多し平均初霜は十一月十五日にして最早は明治四十二年十月三十日平均終霜は三月二十五日にして最晚は大正六年四月二十五日平均初雪は十二月二十九日にして最早は明治四十二年十一月二十九日平均終雪は三月十日にして最晚は大正三年四月三日濃霧は四月乃至七月間に起り普通五月下旬より七月中旬に多く就中六月の梅雨期に於て最も濃厚なり最近十箇年の月別平均風位風力表左の如し

釜山港風位風力十箇年月別平均表

月次	最多風位	平均風力	暴風々位	同上風力	一秒間十米突以上の風力平均日數
一月	北西	六、七(秒間米)	北々西	二七、六(秒間米)	一九
二月	北	六、七	北々西	二六、七	一六
三月	北西	六、二	北々西	二八、九	一六
四月	北	五、四	西北西	二三、九	一一
五月	北	四、五	南々西	四〇、〇	七
六月	南	四、〇	南	一八、三	五
七月	南	四、六	北々東	二五、四	六

八月	北東	四、五	東	四八、二	五
九月	北	四、八	北東	二七、七	六
十月	北	四、七	南西	二二、六	七
十一月	北	五、六	北西	二七、七	一三
十二月	北	五、六	北	二五、二	一八

三　地勢、港口、暗礁、砂洲及航路標識

地勢　灣の東北西三方は陸地にして大淵谷山(一、四〇六呎)山脈高遠見山(一名九德案山一、六五三呎)山脈は概ね海岸線に平行して本港背面の障壁となり絶影島(古碣山一、二九七呎)其の南方前面に横はりて外海とを隔つ然れは灣は東西二口を有し其幅員東口約九百六十間西南口約百八十間港内水面積二百五十五萬坪にして神戸港より廣きこと四十萬坪横濱港より廣きこと約百萬坪なりとす

港口　本港は中央に位する絶影島によりて二港口を有するを以て船舶は吃水に應して其の就れよりも入港することを得東口には右に五六島(最高岸二一六呎)あり左に生島(一六三呎)あり中央に鳥島(一名冬柏島又椎木島といふ四五二呎)あり船舶は五六島と鳥島との間に於て鵜の瀬桂燈立標、釜山(草梁)導燈及高遠見山を殆んと一線に視て航進す狹搾部は浮鳳末(赤崎)門乭末間九百六十間にして水深三十六尺以上を有し吃水三十尺以内の船舶を通すへし西口には右に生島(前掲)あり左に頭島(一九一呎)あり航路は迂回せる待迅末(洲岬)南濱間にして狹搾部幅員百八十間を存し潮流稍急激なれとも最小水深十八尺を有するを以て吃水十五尺未滿の船舶の航行に任ふ

暗礁砂洲及航路標識　絶影島燈臺は絶影島の南東端にあり混凝土造四角形白色の第四等燈臺にして毎十三秒時を隔てゝ七秒時間に三群閃白色閃光を發す燈高水面上百七十一呎光達晴夜二十浬別に本燈

臺には壓搾空氣式霧笛を設け濃霧に際し毎四十秒時を隔てゝ三秒時間吹鳴す

外港燈桂浮標は東口海雲未の北西に在り鐵造圓形上部櫓狀紅色の第六等アセチリン瓦斯桂燈浮標にして各五秒時の明暗白色閃光を發す燈高水面上十呎光達晴夜八浬

皷岩桂燈浮標は皷岩(東口望臺未の南にあり高さ一呎地方は淺灘にして陸岸に連なる)の南側にあり鐵造圓形上部櫓狀紅色の無等アガ式瓦斯桂燈浮標にして毎三秒時間に一紅色閃光を發す燈高水面上十依一呎光達晴夜八浬

鋸齒礁桂燈浮標は鋸齒礁(皷岩と相對し航路の南側にあり最淺部水深二呎四分の三)の北東側にあり鐵造圓形上部櫓狀黑色の無等アガ式瓦斯桂燈浮標にして毎三秒時間に一緣色閃光を發す燈高水面上十三呎光達晴夜五浬

鵜ノ瀨桂頭立標は鵜ノ瀨(一名與利島と稱し航路に近き東口狹搾部にあり高六呎南西方約半鏈にして淺瀨擴延す)岩上にある石及混凝土造圓形紅黑横線の無等アガ式瓦斯桂燈立標にして毎三秒半時を隔て一秒半時間に二群閃白色閃光を發す燈高水面上三十三呎光達晴夜十浬

浮鳳未桂燈浮標は浮鳳未礁脚の南西端にあり鐵造圓形上部櫓狀紅色の無等アガ式瓦斯桂燈浮標にして毎三秒時間に一白色閃光を發す燈高水面上十三呎光達晴夜八浬

登半多利桂燈立標は登半多利岩(一岩燕名と稱し鵜ノ瀨と相對して航路の南側にあり高一呎)上にある混凝土造圓形黑色の第六等アガ式瓦斯桂燈立標にして毎三秒時間に一白色閃光を發す燈高水面上三十七呎光達晴夜十一浬

待迅未砂洲桂燈浮標は西口待迅未地先の砂洲にあり鐵造圓形上部

櫓狀紅色の無等アガ式瓦斯桂燈浮標にして毎五秒時間に一白色閃光を發す燈高水面上十一呎光達晴夜八浬

四　港界、同標識、廣袤、底質、水深及浚渫

港界及同標識　東口の港界は浮鳳末より絶影島廣蟾末に引ける一線西口の港界は富民洞南端より絶影島大風浦に至る一線にして各所に立標を設け之を標示す

廣袤及底質　東口狹搾部より西口狹搾部に亙る水面積は船溜約十五萬坪を伴せ約二百七十萬坪にして横濱港及大阪港の約二倍倫敦及里巴坡の約四倍に相當し之を世界孰れの商港に比較するも遜色なし水底の地質は東口の一部に僅少の岩礁點在する外概ね泥土にして錨掻極めて良好なるのみならず浚渫頗る容易なり

水深及浚渫　現今の主なる錨地絶影島北西方約四十萬坪は海岸を

距ること僅に二百五十間にして三十尺乃至五十尺の深度を有すれとも其の他の大部分は水深二十四尺に充たさりき此に於て先つ第一棧橋附近五萬三千百六十四坪を水深二十四尺に浚渫し次て東口鵜ノ瀬附近は水深三十尺に充たさりしか二萬噸級船舶の出入に支障なからしむる標準を以て第二棧橋前半部と共に三十六尺に其の後半部は之を二十七尺に此の兩者合計二十七萬八千三百十一坪を浚渫(鵜ノ瀬附近に於ては除岩工事を施したる所あり)したるを以て二十四尺以上の水深を有する水面積約九十萬十八尺以上の水域約百六十四萬坪を得たり然れとも之を本港將來の發展に稽ふるに尙未た充分ならさるものあるか故に第二期築港工事に於ては現今二十四尺以下の水深箇所二十二萬二千六百坪を二十四尺乃至二十七尺に浚渫し以て二十四尺以上の水深水域約百十二萬坪を得へき計劃を定め別に其の附隨工事として沿岸貿易船の航路たる絶影島渡船場地先約七千坪を水深二十

一尺に浚渫し同時に同島洲岬に約二萬二千坪の船溜を設けて之を水深六尺以上に浚渫せんとす

五　潮位及潮流

本港内潮水の干満は其の差　四五尺にして錨地の漲潮流は南西方に落潮流は北東方に向走し其の速度は東口に於ては毎時半浬西口に於ては四分の一浬を超えされども西口狹搾部に於ては三浬四分の一速度を有す左表は朔望平均干潮面を零位として起算せる港内潮水干満表なり

釜山港内港内潮水干満表　大正七年

月次	最高潮水	最低潮水	平均満潮	平均干潮
一月	四、六六尺 (一)	〇、二二尺 (一)	三、三八尺	〇、四一尺
二月	四、七六 (一)	〇、九一 (一)	三、四七	〇、二四
三月	四、三三 (一)	一、〇八 (一)	三、四四	〇、一七
四月	四、二六 (一)	〇、八八 (一)	三、四四	〇、一七
五月	四、二六 (一)	〇、〇九 (一)	三、三二	〇、四六
六月	四、二三	〇、〇八	三、八四	〇、六二
七月	五、一五	〇、二三	四、一〇	〇、〇五
八月	五、〇二 (一)	〇、二五 (一)	四、一五	一、一六
九月	五、〇五 (一)	〇、〇五 (一)	四、五三	一、一三
十月	四、七九 (一)	〇、〇七 (一)	三、八三	〇、八九
十一月	四、八五 (一)	〇、一二 (一)	三、八六	〇、五六
十二月	四、六二 (一)	〇、一二 (一)	三、六六	〇、五三

六　錨地、碇泊制限水域、同標識及繫船浮標

錨地碇泊制限水域及同標識　本港の主なる錨地は絶影島北西方第

一棧橋以西の水域水深三十尺乃至五十尺の箇所にして棧橋繫留船舶の出入を便ならしめんとする船舶碇泊制限區域は第一及第二棧橋の周圍及龍尾山頂より浮鳳未倍號見張所旗竿に引ける一線と第一棧橋沿突堤先端より絶影島門乭末に至る一線との會合點の内稅關監視課前煉瓦塀角護岸より元釜山棧橋株式會社所屬白色浮標(大正七年撤廢)を經て朝鮮興業株式會社釜山支店倉庫南角護岸に至る二直線内を除きたる相似三角形水域なるか龍尾山東方山腹及舊稅關船溜防波堤先端に於ける頭部桝形白色木造圓柱、伏兵山東方山腹岸石に描けるペンキ塗白色桝形及第一棧橋沿突堤先端に於ける赤色弧光電柱は之を標示する見透標なり現今第二棧橋以北に於ては船舶の碇泊するもの極めて寥々たる狀況なるか之れ本港に於ける貿易其の他の機關か概ね稅關附近及其の以南に存在し且つ從來の錨地は第一棧橋沿突堤に依りて北東の風を阻み水深くして風波靜穩なるか爲なり卽ち既往三箇

年に於ける荷役不可能日は僅に大正七年中の四日にして外航汽船は第一棧橋以南舊棧橋跡以北間に外航帆船は稅關岸壁に内航汽船は舊棧橋跡附近に内航帆船、艀船其の他の港内使用船舶は北濱及舊稅關船溜に漁船及其の附屬船は絶影島北岸及南濱沿岸に碇泊す尙第二期築港工事に依る東口防波堤の築造及第二棧橋以北の浚渫にして竣功せは現時に數倍する新錨地を得へし嘗て大正七年に於ける軍隊輸送に際しては其の水域に於て同時に三千噸乃至六千噸級の汽船十數隻を容れ尙茫邈たる水域を剩せり

繫船浮標　繫船浮標は適所に之を配置して船舶の碇繫に便ならしむる豫定なるか現今は第二棧橋の北方に鐵道直徑五尺高四尺(繫船能力四千噸級汽船一隻)のもの一あるのみ而して之か使用料に對しては未た規定せられたるものなし

七　海港檢疫

本港の海港檢疫は約三十年前より必要の場合のみ稅關に於て之を施行し其の設備としては絕影島に假避病舍唯一棟を設けたるに過ぎさりしか明治四十一年に至り港口神仙臺(東萊郡西面龍塘里)に神仙臺檢疫所を建て事務室、實驗室、汽罐所、炊事場、人體消毒浴室、貨物消毒所、未消毒者待合所、既消毒者待合所、停留所、病室、ペスト病室、汚物燒却室、屍庫屍體燒却所、及木製棧橋等を設備し明治四十五年三月以降釜山警察署の管理する所となれり現今檢疫は浮鳳未沖合に於て之を施行し復航船及帆船に限り普通錨地に於て檢問をなしつゝあり

八　海軍關係官廳

本港に於ける海事關係官廳は既記のものゝ外尙左の五あり

港務海港檢疫事務所　棧山警察署所管にして稅關監視課廳舍內にあり信號見張所、瓦斯發生船及海港檢疫所を管守し港內保安、船舶錨地指定、港內水面使用許可、船舶檢疫、消毒鼠族驅除、港內一搬衞生其の他港務及開港檢疫に關する一切の事務を掌る

釜山警察署水上警察官派出所　佐藤町にあり水上警察に關する事務を掌る

遞信局釜山海事出張所　西町二丁目元釜山郵便局跡にあり慶尙南道及慶尙北道の海事に關する事務を管掌す

土木部釜山出張所　相生町にあり專ら本港海陸聯絡設備工事の設計施行の任に當り本年以降六箇年繼續事業たる第二期築港工事も亦同所の管掌する所なり

釜山測候所　寶水町三丁目にあり氣象觀測、時刻測定、天氣豫報及暴風警報發布等の事務を執れり

九　暴風警報信號及暴風雨標

暴風警報信號所及暴風雨標は舊稅關船溜防波堤の先端にあり氣象信號式に依る信號標を掲揚す

一〇　棧橋、突堤及特設信號

棧橋並突堤　釜山稅關第一棧橋は鐵造片棧橋にして長百五十二間幅前半部十四間三尺後半部十二間五尺面積二千五十一坪水深二十四尺あり三千噸乃至四千噸級の汽船二隻を同時に繫留せしむることを得明治四十五年六月十五日之か使用を開始し關釜聯絡船每日朝夕二回之に發着す本棧橋は從來關釜聯絡船旅客船の外同貨物船をも繫留せしめたるか大正七年七月第二棧橋使用開始と共に貨物船は之を同棧橋に繫留せしめ本棧橋は旅客船の專用に供せり第一棧橋に接して其の北側に突堤ある長百七十八間幅十八間一尺面積三千五百二十七

坪を有す釜山停車場に聯絡する二條の鐵道を敷設し鮮滿急行列車每日朝夕之に發着し長春へ僅に三十三時間莫斯科へ九日巴里及倫敦へ十一日にして達すへし突堤上に一千六百三十三坪の鐵造上屋を建設し旅客待合室、貨物藏置場、事務室、小荷物取扱所、切符賣場、喫茶店等を設けて船車聯絡を便ならしむ貨物收容能力約三十九萬噸なるか大正七年に於ける實際收容高は約四十五萬噸に達し年々激增するを以て更に一層の施設を加へんとし第二期築港工事に於ては本突堤の幅員を三十五間二尺に擴張して木造上屋三棟を建て鐵道を增設し其の北側に長二百十五間幅八間二尺の繫船棧橋を築造し以て埠頭の總幅員を五十六間三尺とし中央に幅五間の道路を導きて車馬の交通に便ならしめんとす大正七年の繫船數は七百七十七隻(八十四萬九千八百八十一噸)旅客は上陸十三萬三千七百十八人乘船十三萬八千四百六人合計二十七萬二千百二十四人貨物は移出四十五萬六千二百六十一噸移入

二十九萬五百三噸合計七十四萬六千七百六十四噸なり

釜山稅關　第二棧橋は第一棧橋の北方百十五間を隔てゝ相幷行し鐵造にして長二百間幅二十一間面積四千二百坪あり其の前半兩側は水深三十六尺にして二萬噸級の船舶各一隻を其の後半兩側は水深二十七尺にして七千噸級の船舶各一隻合計四隻を同時に繫留せしむることを得釜山停車場に聯絡する四條の鐵道敷設しあり棧橋上には鐵造上屋三棟(八百五十九坪)及木造家屋一棟(二十六坪二五)を建設し貨物藏置場、旅客待合室、事務室、荷主溜所、人夫溜所等に充て其の先端に遷車臺を設け主として貨物船を繫留せしむる方針なるか第二期築港工事に於ては更に突堤及棧橋を附加し總幅員六十一間の埠頭となし現在の上屋を擴張すると共に別に木造上屋二棟を設け鐵道及道路を新設して其の使用を完からしめんとす大正七年七月一日本棧橋使用開始後本年六月に至る一箇年の繫船數は五百六十二隻此の噸數二十七萬

九千四百五噸(內汽船四百三十一隻噸數二十七萬千二十五噸帆船百三十一隻噸數八千三百八十噸)にして貨物は輸移出二十萬三千九百四噸輸移入十一萬千二百二十四噸合計三十一萬五千百二十八噸內棧橋上の積卸は輸移出十一萬二千六百七十六噸輸移入二萬六千九百五十四噸合計十三萬九千六百三十噸にして全數の約三割五分に相當し他の約六割五分は艀船に依るものなり棧橋使用上荷重の制限は第一棧橋にありては面積一坪に付基部より延長九十間に至る海面沿幅五間は一千八十貫其の他は二百七十貫第二棧橋にありては一千三百五十貫の割合を超ゆることを得す(釜山稅關棧橋使用規則第九條第一項第一號)棧橋使用料は登簿噸數一噸に付二十四時間迄二錢之を超ゆる時は超過時間二十四時迄每に一錢なり(同規則第四條)其の他使用上に關する詳細は該規則、同細則、釜山稅關所屬曳船使用規則及同細則にあり

特設號信　本棧橋及第二棧橋に繫留せむとする船舶に對しては第

一棧橋沿突堤先端に特設信號柱(水面上の高さ七十呎)を設け其の柱頭に晝間は上下六尺を隔てゝ方旗を夜間は同四尺を隔て、燈火(光達晴夜二浬)を掲け以て繫留場所の指定等を標示す一般出入船舶に對する信號左の如し

紅紅紅　第一棧橋を解纜せむとする船舶あり注意すへし

綠紅紅紅　第二棧橋を解纜せむとする船舶あり注意すへし

一一　船溜及防波堤

舊稅關船溜　舊稅關船溜は本町一丁目地先にあり防波堤二十間水深十四尺水面積七千坪荷揚場二百五十間主として輸移出水產製品の積出、朝鮮郵船株式會社汽船による沿岸貿易貨物の積卸及水產物の陸揚に使用せらるゝ上屋及倉庫の設備あり本船溜は次項の北濱船溜と共に釜山府の管理に屬し何れも螺旋推進機を備ふる總噸數三十噸以

上の船舶の出入を禁し常時之に碇泊する船舶に對しては月額一圓の使用料を徵す

北濱船溜　北濱船溜は埋立新町地先にあり水深十五尺水面積六千五百坪荷揚場三百二十二間沿岸貿易船の出入瀕繁にして貨物積卸般盛を極む船溜に沿ひて一噸半手働鐵造起重機一臺及朝鮮興業株式會社釜山支店倉庫あり

草梁船溜　草梁船溜は藏前町地先にあり防波堤三條總延長二百六十五間水深十五尺水面積壹萬七千五百坪荷揚場三箇所總延長四十一間並鐵道構內波止場六十九間、鐵道引込線、上屋、貨物積卸上屋及起重機等の設備あり

釜山鎭船溜　釜山鎭船溜は釜山鎭埋築地地先にあり防波堤二條總延長六百二十六間水深十七尺水面積十一萬六千坪荷揚場二箇所總延長七十八間中形外洋船舶の碇泊に適し鐵道引込線、上屋及倉庫あり釜

山打切鐵道貨物の積出等に使用せらる

薩摩堀船溜　薩摩堀船溜は絶影島瀛仙洞にあり文祿慶長の役に於て我薩摩兵か掘りて船溜となせし處にして水面積約一萬坪漁船の安全なる碇泊場なり數年前此の水面埋築を着手せし者ありしか幾許もなく工を止め向後工事繼續の意なしと謂ふ

洲岬船溜　第二期築港工事附隨工事として絶影島洲岬に約二萬二千坪の船溜を新設する予定なるか之か爲に延長百八十間の防波堤を築造する必要あり右防波堤は釜山府をして施工せしむへき計劃なりと

東口防波堤　本港は冬季偏北の風強く外海の激浪浸入して東口に面する沿岸を襲ひ船舶の碇繫安全ならさることあり故に第二期築港工事に於ては東口に一大防波堤を築造し獨り同地方をして其の憂なからしむるのみならす全釜山港をして安全なる碇泊場たらしめんとす今其の設計を見るに防波堤を分ちて南北の二とし北堤は浮鳳末より起りて鵜ノ瀨に至り其の延長三百八間南堤は更に分ちて大小の二とし小堤は絶影島門乭末より百二十三間の地點に於て大堤と三十間の小港口幅員を存し小型船舶の出入を便ならしめ大堤は北堤と百八十間の大港口幅員を存して船舶の航路を開き其の總延長八百二十一間大小二港口の延長二百十間なり

一二　船舶給水

第一棧橋及第二棧橋に水道鐵管を導き船舶給水をなし一噸に付十錢を徴收す別に船舶給水業者一あり九噸積十六噸積二十噸積三十噸積四十噸積の給水船各一隻計五隻を備へ沖合碇泊船舶に給水す給水料は碇泊場所の遠近により一噸三十五錢乃至六十錢にして以上兩者の給水高は一箇月約三千噸なり

一三　船陸交通場所

貨物の陸揚船積其の他外國貿易船及外國貨物を積載せる沿岸貿易船と陸地との交通は稅關長の特許を得たる場合の外稅關に於て定めたる場所に由らざるへからす(關稅法第二十八條)本港內に於ける船陸交通場所は左の十箇所にして其の中樞たる稅關監視課前に在りては長八十六尺幅二十四尺深四尺の函舟形浮棧橋を設け之を長二十一尺幅十二尺の固定橋と長三十三尺幅十五尺の聯絡橋とに接續せしめ以て汽艇及通船の繫留及旅客の交通に便せり

稅關監視課浮棧橋

稅關構內波止場

北濱船溜陸軍運輸部釜山支部浮棧橋(軍用貨物及軍人軍屬に限る)

舊稅關船溜朝鮮郵便船株式會社釜山支店浮棧橋(貨物を除く)

水產製品檢査所波止場(特定せる水產製品及其の運搬に從事する者に限る)

第一棧橋

第二棧橋基部波止場

第二棧橋

釜山鎭埋築地南滿洲鐵道株式會社京城管理局特許地波止場(旅客を除く)

移出牛檢疫所棧橋(移出牛及其の積出に從事する者に限る)

一四　荷揚場、起重機及定置衡器

外國貿易地區に於ける荷揚場　外國貿易地區に屬する荷揚場延長は稅關監視課前浮棧橋二十八間、稅關構內波止場百八十九間(基礎捨石の高干潮面以下三尺五寸)北濱船溜陸軍運輸部釜山支部浮棧橋十間、舊

稅關船溜朝鮮郵船株式會社釜山支店浮棧橋十四間、水產製品檢查所波止場五十間、第一棧橋百五十二間、第二棧橋基部波止場百十間(基礎捨石の高干潮面以下五尺)第二棧橋四百間、釜山鎭埋築地南滿洲鐵道株式會社京城管理局特許地波止場三十三間、移出牛檢疫所棧橋六十間合計一千四十六間なり既記の如く本港內潮水干滿の差は僅に四五尺に過きさるを以て前記各荷揚場に於ては潮位の如何に係らす繫留荷役に支障なく特に稅關構內波止場は第一棧橋沿突堤によりて北東の風を防き絕影島によりて南東の風を遮るを以て一般に風波高き場合と雖全然荷役を中止するか如きことなく絕對に荷役不可能なるは一箇年を通して兩三日を出つること稀なり

沿岸貿易地區に於ける荷揚場　沿岸貿易地區に屬する荷揚場は北濱船溜波止場三百二十二間、佐藤町朝鮮興業株式會社釜山支店倉庫地先九十六間、舊稅關船溜波止場(水產製品檢查所波止場を除く)二百間、釜

山水產株式會社地先四十間釜山食糧品株式會社附近五十九間藏前町水際四十一間、草梁鐵道構內波止場六十八間洲岬以東約三百間等にして延長約一千二百間なり此の內北濱船溜及舊稅關船溜は釜山府に於て之を管理し貨物を定置すること一日以上に亙るときは一個に付一日二厘の使用料を徵す

起重機及定置衡器　稅關構內には三噸手働鐵造起重機(半徑十六尺水面上高十八尺)及十噸手働鐵造起重機(半徑二十一尺水面上高二十一尺)各一臺を備へて貨物積卸に便し別に同構內及第二棧橋基部に五千斤掛定置衡器各一臺を備付く此等の起重機は其の使用無料にして最近五箇年の使用件數を見るに三噸起重機は大正三年五十五件、同四年六十四件、同五年六十四件、同六年四十八件、同七年九十八件、十噸起重機は大正三年五件、同四年八件、同五年十件、同六年二十五件、同七年十七件なり又北濱船溜波止場には一噸半手働鐵造起重機一臺を備へて沿岸

貿易貨物の積卸に便し草梁鐵道構内波止場には南滿洲鐵道株式會社京城管理局所屬に係る十五噸手働木造起重機(高二十三尺)及釜山府所屬に係る五噸手働木造起重機(高十三尺)各一臺あり

一五　上屋、倉庫及保税地域内屋外貨物藏置場

保税地域に於ける上屋、倉庫及屋外貨物藏置場　本港に於ける貿易上の施設を觀るに明治四十四年現在の税關廳舍其の他の設備成り次て第一棧橋竣工して旅客の船車聯絡には至大の利便を與へたれども貨物に對しては僅に上屋四棟千九十九坪第一棧橋沿突堤上屋貨物藏置場二百四十四坪の外少許の屋外貨物藏置場を有するに止まり一箇年の貨物藏置能力約五十萬噸に過きさりしか今や第二棧橋其の他の完成を告け爲めに荷役能力約五十萬噸を增加し貨物藏置能力亦約百

萬噸を算するに至りたるを以て過去數年間設備不充分の爲痛切に感せられたる貨物保護上の不便荷捌能力の減退竝野積の爲の雨露に因る損害等幾多の苦痛を輕減し得たるも未た充分ならさるに由り第二期築港工事に於ては更に第一棧橋に木造上屋三棟(七百坪)を增築し第二棧橋上の現在上屋を擴張して建坪二千四百三十坪(建增一千五百三十坪)となすと共に別に木造上屋二棟(二千五百二十坪)を建て同棧橋基部新埋築地に木造上屋三棟(二千四百坪)煉瓦倉庫二棟(一千五百坪)を建設せんとす之に依りて增加すへき貨物藏置能力は五十萬噸に庶幾かるへし現在保税地域に於ける上屋、倉庫及屋外貨物藏置場竝最近五箇年に於ける本港出入貨物噸量、官設保税倉庫出入貨物噸量收容貨物噸量左の如し

釜山税關保税地域内上屋、倉庫及屋外貨物藏置場

一覽表

種別	所屬	構造	棟數	坪數	所在
上屋	釜山稅關	木造	六	一、七一一	稅關構內
同	同	鐵造	三	八五九	第二棧橋上
同	同	木造	四	五三二	水產製品檢査所構內
同	鐵道局	鐵造	二	二四四	第一棧橋治突堤
倉庫	釜山稅關	煉瓦造	二	六七二	稅關構內
上屋	鐵道局	木造	三	一、二四〇	釜山驛構內
同	同	同	二	一、八九四	釜山鎭埋築地
屋外貨物藏置場	釜山稅關			三三六	稅關構內
同	同			七〇〇	第二棧橋上
同	同			一、四〇〇	第二棧橋基部道路西側
同	鐵道局			六七六	第一棧橋沿突堤
同	同			八八八	草梁驛構內

屋外貨物藏置場	鐵道局			三、三〇〇	釜山鎭埋築地
倉庫	名出音一	煉瓦造	二	一六	大新洞
同	同	木造	一	六	同
上屋合計				二〇	六、四八〇
倉庫合計			五	六九四	
屋外貨物藏置場合計				七、三〇〇	
總計			二五	一四、四七四	

備考 釜山稅關木造上屋には掛出上屋四百四十一坪を含む一箇年の貨物藏置能力約四十萬噸

釜山稅關鐵造上屋には事務室其の他六十三坪を含む一箇年の貨物藏置能力約二十萬噸

釜山稅關倉庫の內四百七十六坪は之を保稅倉庫に八十四坪は之を收容倉庫に八十四坪は之を上屋に二十八坪は之を物

置に充用す

鐵道局所屬釜山鎮埋築地上屋及屋外貨物藏置場は南滿洲鐵道株式會社請願に係る貨物特殊取扱特許場所なり

名出音一庫は私設保税倉庫なり

釜山港出入貨物噸量五年對照表

區別＼年次	大正七年	大正六年	大正五年	大正四年	大正三年
税關構内	六八五、七五九噸	五二四、八〇五噸	四八〇、四二八噸	五九六、六〇二噸	二九三、三七六噸
内上屋内					
其の他	九〇七、三二一	九〇九、九〇六	五四九、〇三〇	四〇二、九六八	四七三、八七三
合計	一、五九三、〇六〇	一、四三四、七二一	一、〇三九、四五八	九九九、五七〇	七六七、二五一

釜山税關官設保税倉庫出入貨物噸量

五年對照表

區別＼年次	大正七年	大正六年	大正五年	大正四年	大正三年
入庫	六、一三〇噸	三、五八六噸	一、一九二噸	七四三噸	一、二七五噸
出庫	六、一五六	二、九七四	一、一〇五	一、〇八四	一、二三九

釜山税關收容貨物噸量五年對照表

區別＼年次	大正七年	大正六年	大正五年	大正四年	大正三年
收容	五、九五三噸	三、四二一噸	二、三九八噸	二、〇六四噸	二、五五九噸
收容、解除	五、九一三	三、四二〇	二、三五八	二、〇四二	二、四九〇

保税地域以外に於ける上屋及倉庫 保税地域以外に於ける上屋及倉庫は明治三十三年十一月釜山共同倉庫株式會社の前身たる釜山倉庫株式會社設立せられたるもの之れ本港倉庫業の濫觴にして爾來朝鮮興業株式會社釜山支店(倉庫坪數一千九百九十二坪)釜山共同倉庫株式會社(同一千四百九十九坪)伊藤合資會社(四百八十五坪)彰興倉庫株式會社(同四百四十一坪)南滿洲鐵道株式會社京城管理局(同五百六十坪)等

相次で起り大正八年九月に至り大池商店(同九百四十八坪)亦營業を開始し倉庫坪數合計五千九百二十五坪を算するに至りたり又第二期築港工事附隨工事に於ては新に釜山府をして舊棧橋跡北濱海岸埋築地に一千三百四十四坪の上屋を建設せしむる豫定なり滿洲鐵道京管局及民間の上屋及倉庫竝最近五箇年に於ける營業倉庫出入貨物個數左の如し

滿鐵所屬倉庫及上屋一覽表

種別	構造	棟數	坪數	所在
倉庫	木造	一五	三、八六〇	釜山驛、草梁驛、釜山鎭驛、釜山鎭埋築地
同	鐵筋混凝土造	一	七〇	釜山驛
同	煉瓦造	二	一一五	草梁驛
旅客乘降上屋	鐵造	三	一、七九二	釜山驛
同	木造	二	一〇二	草梁驛、釜山鎭驛
貨物積卸上屋	同	四	二、七九八	釜山驛、草梁驛、釜山鎭驛、釜山鎭埋築地
上屋合計		一八	四、〇四五	
倉庫合計		一〇	五、三六八	
總計		二八	九、四一三	

民間倉庫一覽表

構造	棟數	坪數	構造	棟數	坪數
木造	一一七	一〇、二七二	鐵筋混凝土造	三	二七〇
煉瓦造	二五	二、八四二			
土藏造	一七	一、三九五	合計	一六二	一四、七七九

釜山營業倉庫出入貨物五年對照表

年次 / 區別	大正七年	大正六年	大正五年	大正四年	大正三年

入庫	一、三五八、三三七噸	四一六、六三一噸	三八七、三二一噸	三九〇、九二五噸	二七二、八五四噸
出庫	一、三三八、八二三	四一四、九一六	三七、六一八	三五五、七一九	二八二、九三一

備考　本表には彰興倉庫株式會社會社取扱貨物を含ます

一六　爆發物竝火藥庫、石油貯藏場、貯炭場及貯木場

爆發物、火藥、石油、石炭及木材　等の貯藏場に對しては官又は公共團體に於て未た何等の施設を加へたるものなく各當業者毎に適當なる設備をなせり即ち爆發物及火藥に對しては大新洞名出私設保稅倉庫（二十二坪）佐藤火藥庫（十三坪）青鶴洞西村火藥庫（八坪）東萊郡西面戡巒洞三井物產株式會社京城支店火藥庫（六坪）あり石油に對しては嬴仙洞紐育スタンダード石油會社釜山出張所石油倉庫（五百坪）嬴仙洞ライジン

グサン石油會社釜山出張所石油倉庫（百二十七坪）及鐵造石油貯槽大（高三十五呎直經六十四呎）小（高十五呎、直徑十六呎）各一基あり貯炭場は草梁停車場構內に於ける滿鐵所屬石炭貯藏場を除き各販賣業者の所有に係るものあれども特記するに足るものなし貯木場も同し因に木材商は主として榮町に居住し貯木場も亦多く同所に存在するを以て一般に之を材木町と通稱せり

一七　造船所、乾船渠及曳揚船架

造船所　絕影島に造船所六（田中造船所、中村造船所、宮本造船所、野方源治造船所、岡野造船所、森本造船所）あり內田中造船所、及中村造船所は稍完全なる設備を有し造船能力一は汽船（船體のみ）五百噸（船臺長二百尺のもの二臺）他の一は汽船（船體のみ）三百噸（船臺長三百尺のもの一臺百五十尺のもの一臺）にして海運界の好況に伴ひ造船又は船體修理等

多く業務大に發展して晝夜兼業の盛況を呈しつゝあり然れとも未た汽船を製造したることなく從來のものは總て石油發動機船のみなりと

乾船渠及曳揚船架　本港は既に數百萬圓を投して築港に關する諸般の施設を爲し海陸の聯絡完成せるに拘らす未た船渠の設備なきを以て二三百噸級以下の小型汽船と雖も其の大修理又は船底塗替に際しては遠く長崎又は大阪等に回航せさるへからす此に於て一二の有志は船渠新設を計劃し地を門司末に近き絶影島北岸に相し既に仕上旋盤工場、船員宿泊所等の建設を終へ一千五百噸級船舶の入渠すへき乾船渠(長二百二十一尺、幅四十一尺、深二十二尺)は大正九年六月を以て五百噸級船舶の上架すへき曳揚船架(長四百十四尺、幅二十二尺)は今大正八年十二月を以て各其の竣功を見んとし鑄物工場、木工場、錬鐵製鑵工場、事務室等亦近く建設の運ひにあり卽ち本船渠は本港多年の要求に應するものにして之か竣功の曉は朝鮮海運界に貢獻する所大なるへし

第二　貿易

一　總說

本港の貿是は逐年發展を示し殊に近年歐洲戰爭の影響に因り財界未層有の好況に伴れ一層其の顯著なるを認めらる明治十七年以降の輸移出入貿易額(金銀貨幣及同地金竝通過貿易價額を含ます)對照圖表左の如し

二　外國貿易

本港近年の對外貿易は歐洲戰亂の影響に依り對歐米貿易に於て何等見るへきものなく又仁川及鎭南浦竝元山の各港と異り支那及露領亞細亞より比較的遠隔の地に位し最近定期航路も亦大阪浦塩線唯一あるのみなるを以て其の方面に對する貿易亦不振なり大正七年に於

ける外國貿易は輸出八十萬圓輸入五百四十六萬圓合計六百二十六萬圓にして僅に同年貿易總額の六分に該當するに過きす主なる輸出品は露領亞細亞への精米(十一萬圓)及食鹽(十二萬圓)にして輸入品の主なるものは北米合衆國よりの石油(五十二萬圓)及葉鐵(二十一萬圓)支那よりの栗(十萬圓)小麥粉(十四萬圓)、食鹽(二十五萬圓)麻布(十二萬圓)及小包郵便物(絹布)蘭領印度よりの砂糖(十二萬圓)石油(二十四萬圓)及パラフィンワックス(三十萬圓)英吉利よりの晒金巾及晒シーチング(五十二萬圓)佛領印度よりの碎米(六十八萬圓)等なり最近三箇年の外國貿易額圖表左の如し

三　內地貿易

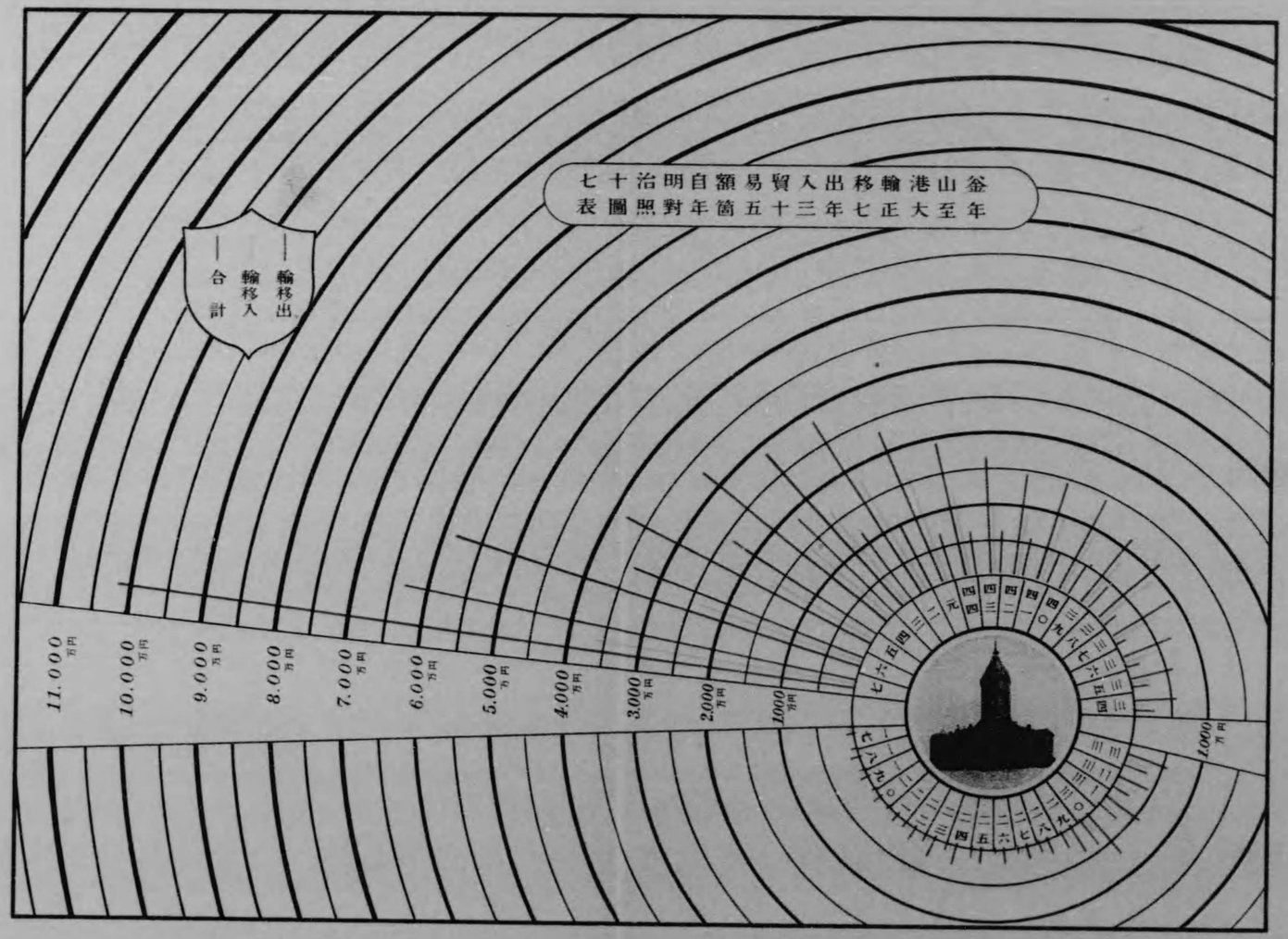
本港は內地より最近距離に位し關釜聯絡航路其の他の交通至便にして且つ朝鮮の對外貿易は歐洲戰亂の爲殆と對內地の獨壇場たる狀

ワックス(三十萬圓)英吉利より輸入の模倣品

領印度よりの碎米(六十八萬圓)等なり最近三箇年の外國貿易額圖表左の如し

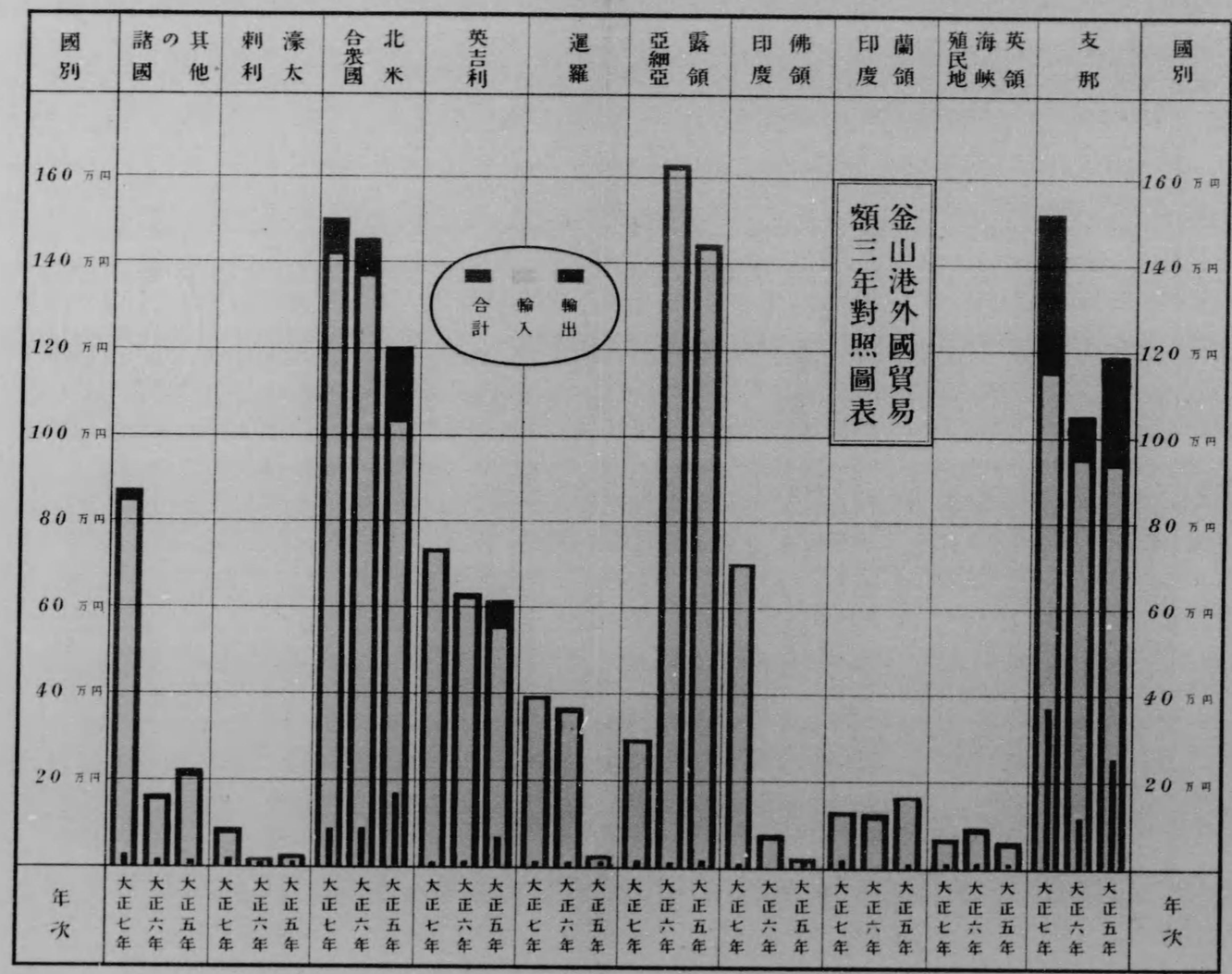
三　內地貿易

本港は內地より最近距離に位し關釜聯絡航路其の他の交通至便にして且つ朝鮮の對外貿易は歐洲戰亂の爲殆と對內地の獨壇場たる狀



釜山港輸移出入貿易額自明治十七年至大正七年三十五箇年對照表

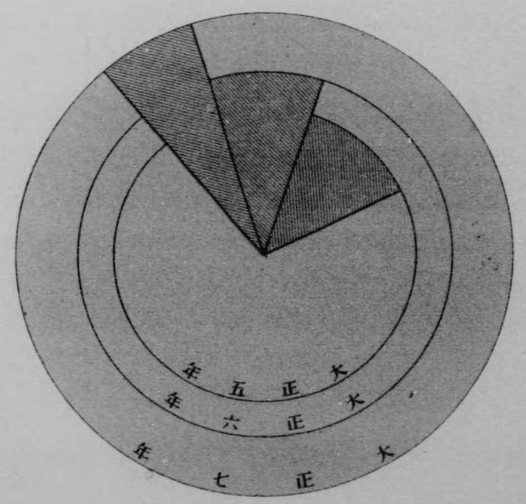
年次	輸移出	輸移入	合計	年次	輸移出	輸移入	合計
明治十七年	二六八、五六七円	三四六、〇七三円	六一四、六四〇円	明治三十五年	二、六六〇、〇八七円	二、七六三、四一五円	五、四二三、五〇二円
同 十八年	一八七、〇八八	三三五、七八九	五三二、八八七	同 三十六年	一、九八四、三一八	四、二三〇、一六七	六、二一四、四八五
同 十九年	二〇五、七二九	四三四、一五四	六三九、八八三	同 三十七年	一、六七八、二〇二	六、四六九、一五八	八、一四七、三六〇
同 二十年	三九六、七三五	六六一、八九一	一、〇五八、六二六	同 三十八年	二、〇九五、五二三	八、二二九、三三八	一〇、三二四、八六一
同 二十一年	三八六、三三三	六四二、二三九	一、〇二八、五七二	同 三十九年	二、九五七、〇五五	七、九三八、〇三四	一〇、八九五、〇八九
同 二十二年	六三六、八二三	八〇六、六八九	一、四四三、五一五	同 四十年	四、四〇八、四九三	八、七二二、八〇五	一三、一三一、二九八
同 二十三年	一、九一四、三七二	一、四三九、四二四	三、三五三、七九七	同 四十一年	四、四七一、三四九	九、二五八、〇八六	一三、七二九、四三五
同 二十四年	一、七九三、三九八	一、四八三、七二八	三、二七七、一二六	同 四十二年	五、一五五、九八三	八、三〇七、九四四	一三、四六三、九二七
同 二十五年	一、二九一、四三七	一、〇二八、七四四	二、三二〇、一八一	同 四十三年	六、〇四九、八三四	九、八三六、一七八	一五、八八六、〇一二
同 二十六年	八六三、七一八	八五五、一七二	一、七一八、八八九	同 四十四年	五、八六四、七四五	一二、四五七、八〇一	一八、三二二、五四六
同 二十七年	七〇一、〇八八	一、〇八九、三〇〇	一、七九〇、三八八	大正元年	六、九七四、〇五〇	一五、三八五、八九三	二二、三五九、九四三
同 二十八年	八七一、四五九	一、六四六、四七九	二、五一七、九三八	同 二年	九、八四五、二九九	一七、五五五、三三九	二七、四〇〇、六三八
同 二十九年	二、六一四、九五六	一、九二三、二九〇	四、五三八、二四六	同 三年	一一、七九四、一三六	二六、九〇九、九二〇	二八、七〇四、〇五六
同 三十年	四、七〇九、三六〇	二、七三五、八三四	七、四四五、一九四	同 四年	一七、八九九、一五七	二四、三五五、八三四	三二、二五四、九九一
同 三十一年	二、八一九、三三九	二、五一五、三三一	五、三三四、六七〇	同 五年	二一、〇六八、八三二	二六、八三四、七四七	三七、九〇三、五六九
同 三十二年	一、八二九、七七八	二、三八九、七五四	四、二一九、五三二	同 六年	三三、二五〇、四二八	三四、五二五、九一六	五七、七七六、三四四
同 三十三年	三、三四六、四八七	二、二三五、五七四	五、五八二、〇六一	同 七年	六四、六二〇、四二五	三五六、四〇八、四一一	一〇一、〇二八、八二六
同 三十四年	三、一一九、九六〇	二、七三一、九二三	五、八五一、五八三				


釜山港外國貿易額三年對照圖表
國別
其他の諸國
濠太利
北米合衆國
英吉利
暹羅
露領亞細亞
佛領印度
蘭領印度
英領海峽殖民地
支那
160 万円
140 万円
120 万円
100 万円
80 万円
60 万円
40 万円
20 万円
輸出
輸入
合計
年次
大正七年
大正六年
大正五年

釜山港外國貿易額三年對照表

年次	大正五年			大正六年			大正七年		
國別 ＼ 輸入 輸出	輸移出	輸移入	合計	輸移出	輸移入	合計	輸移出	輸移入	合計
支那	二五八、九三七円	九三一、三九六円	一、一九〇、三三三円	一二一、七〇一円	九四三、九七三円	二、〇五九、六七四円	三六九、八一三円	一、一四五、一五九円	一、五一五、三五二円
英領海峡殖民地	三八七	五三、八八五	五四、二七二	一、五六〇	八二、四五三	八四、〇一三	四五九	五八、二八六	五八、七四五
關領印度	六四	一七七、九八三	一七八、〇四七	—	一二六、九四五	一二六、九四五	一六、四四九	一三、三九一	一三七、八四〇
佛領印度	八	二、四三〇	二、四三八	—	七五、九五一	七五、九五一	一一五	六九六、〇一三	六九六、一二八
露領亞細亞	一、四三三、二一三	二一、七四一	一、四四四、九五三	一、六二三、六二六	四四一、六二三、六七〇	二、〇八三、三九五	六、八二三	二九〇、二一七	二九六、九七二
暹羅	三〇	二〇、八九二	二〇、九二二	二九	三六〇、九六七	三八一、一八六	九、八四五	三八七、一二七	三九六、九七二
英吉利	六六、〇七七	五四九、五五三	六一五、六三〇	九、三八一	六一八、三四七	六二七、七一八	五五八	七三六、九〇〇	七三七、四五八
北米合衆國	一六七、一四四	一、〇三三、九一九	一、二〇一、〇六三	八五、七八二	一、三六九、八三二	一、四五五、六一三	八五、四二七	一、四一五、四八二	一、五〇〇、九〇九
濠太剌利	二四五	一〇、八〇四	一一、〇四九	三一七	九、三七三	九、六九〇	一〇、二六七	五一、九七五	六二、二四二
其の他の諸國	八、四三五	二〇六、七五五	二一五、一九〇	四、七六七	一五六、六五二	一六一、四一九	二六、七五〇	八四五、四二二	八七二、一七一
合計	一、九三四、五三九	二、九九六、三五八	四、九三三、八九七	一、八三七、三五三	七四四、五六六	二、五八一、八八九	八〇三、〇七八	九、四六四、九五六	九、二六八、〇三四

釜山港外國貿易額及內地貿易額三年比較圖表



外國貿易

內地貿易

釜山港外國貿易額及內地貿易額三年比較表

年次	大正五年	大正六年	大正七年
外國貿易額	四、九三三、八九七円	五、五八一、八八九円	六、二六八、〇三五円
內地貿易額	三二、九六九、六七二	五二、一九四、四五五	九四、七六〇、七九二
合計	三七、九〇三、五六九	五七、七七六、三四四	一〇一、〇二八、八二六

況なりしを以て大正七年に於ける對內地貿易額は移出六千三百八十一萬圓移入三千九十四萬圓合計九千四百七十六萬圓に達し貿易總額の九割四分を占め空前の盛況を呈せり主なる移出品は米(二千七百四十萬圓)を首とし大豆(五百九十三萬圓)、魚類(五百二十四萬圓)、繭(四百九十一萬圓)、棉花(三百四十八萬圓)等之に次き主なる移入品は生金巾及生シーチング(四百三十一萬圓)を筆頭とし日本木綿(百七十五萬圓)、石炭(百五十二萬圓)、砂糖(百三十七萬圓)、綿織糸(七十八萬圓)等之に次けり既往三ケ年に於ける外國貿易額及內地貿易額比較圖表左の如し

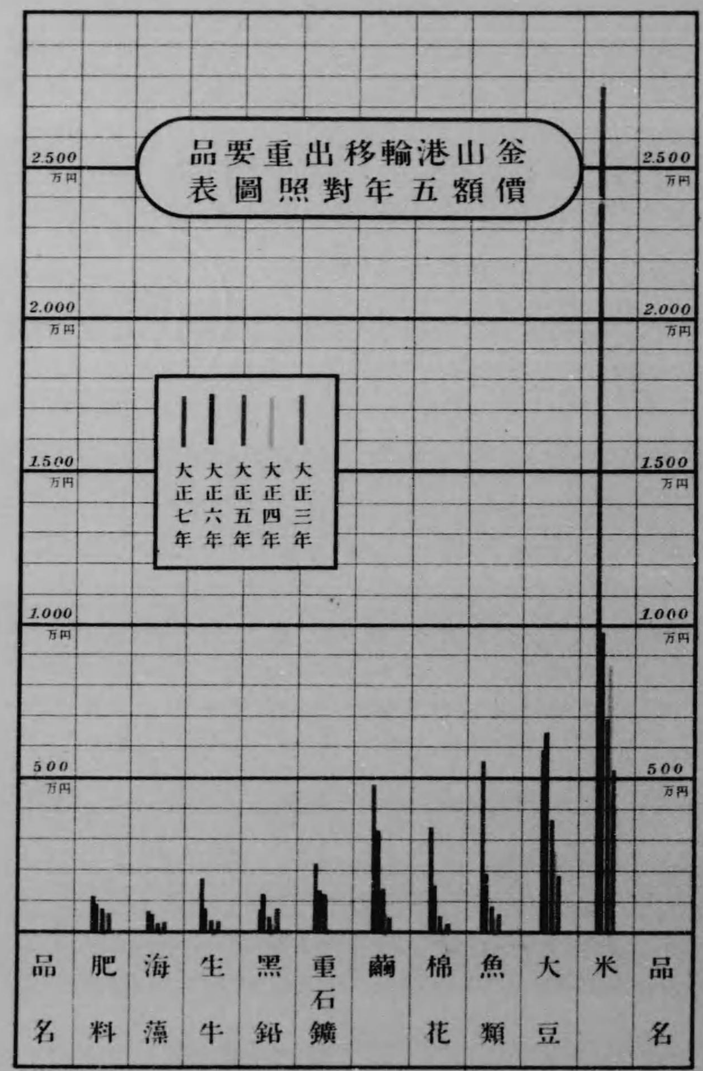
四　輸移出貿易

明治十七年以降大正七年に至る三十五箇年に於て輸移出超過を見たるは明治二十三年より二十六年に至る四箇年、同二十九年より三十一年に至る三箇年、同三十三年及三十四年並大正四年より七年に至る

四箇年合計十三箇年にして大正七年に於ける輸移出貿易額六千四百十二萬圓は總貿易額の六割四分に相當し前年に比し三千百三十六萬圓(約二倍)を增加し五年前の大正三年に比すれは實に五倍半に膨張せり之れ米價暴騰に因る米の激增、移出水産物常時派出檢査場所の開設に伴ふ魚類の增加、輸送徑路の變更等に因る棉花、繭、重石鑛、海藻及肥料の增加、設備の整頓に伴ふ生牛の增加等に基くものにして大豆及黑鉛等は市價低落並産額減少等の爲に少しく減退せしも尙未曾有の盛況を示せり最近五箇年間の輸移出重要品價格對照圖表及金銀貨幣及同地金の輸移出額對照表左の如し

釜山港移出金銀貨幣及同地金價額五年對照表

年次＼種別	金貨及同地金	銀貨及同地金	合計
大正七年	五、七六一、八七六円	二、二六〇円	五、七六四、一二六円



釜山港輸移出重要品價額五年對照表

品名＼年次	大正三年	大正四年	大正五年	大正六年	大正七年
米	五、〇八五、一六四 円	八、七九、三二五 円	六、九二三、〇四六 円	九、〇五一、六九三 円	二七、五八四、八六九 円
大豆	一、八二〇、四九八	二、七五二、〇二五	三、六四九、九四三	六、三二五、三八八	五、九三二、七三〇
魚類	六六四、〇六五	六三六、二二〇	七四四、七八六	一、五七九、二六五	五、二七五、二二〇
棉花	三七、七九三	一七一、三六二	四七六、〇八五	一、五二六、六二六	三、四八九、八八九
繭	三一三、六六〇	六九六、八四〇	一、四三六、〇三五	三、〇七九、〇九〇	四、九二二、九〇四
重石鑛	—	一七、五三九	一、〇六二、二二三	一、二二三、三九二	二、〇二九、二二七

釜山港輸移出重要品價額五年對照表

品名＼年次	大正三年	大正四年	大正五年	大正六年	大正七年
米	五、〇八五、一六四 円	八、七一九、三二五 円	六、九二三、〇四六 円	九、〇五一、六九三 円	二七、五八四、八六九 円
大豆	一、八二〇、四九八	二、七五二、〇二五	三、六四九、九四三	六、三一五、三八八	五、九三二、七三〇
魚類	六六四、〇六五	六三六、二二〇	七四四、七八六	一、五七九、二六五	五、二七五、二二〇
棉花	三七、七九三	一七一、三六二	四七六、〇八五	一、五二六、六二六	三、四八九、八八九
繭	三一三、六六〇	六九六、八四〇	一、四三六、〇三五	三、〇七九、〇九〇	四、九二二、九〇四
重石鑛	—	一七、五三九	一、〇六二、二二三	一、二二三、三九二	二、〇二九、二二七
黑鉛	八九、四一二	二一〇、三〇〇	三八三、一四一	一、一〇五、九〇三	六八五、〇一九
生牛	三〇九、九一一	二九八、八五七	三〇二、九三七	七二四、八一八	一、七五二、〇一三
海藻	二九八、四三〇	一五五、八五一	一三一、一三九	四一六、八九六	七〇五、五七三
肥料	六三一、三三一	六四三、三三八	六六〇、三三三	八九二、六一二	一、一〇八、五四七

大正六年	七、七六六、三五二	六、〇六三	七、七七二、四一五
大正五年	一一、五五〇、八六五	七九、〇三五	一一、六二九、九〇〇
大正四年	八、一〇八、三七〇	一二一、八五六	八、二三〇、二二六
大正三年	七、一〇六、九三八	二五四、五九八	七、三六一、五三六

備考 輸移出額の大部分は金地金なり最近著しく減退せしは諸物價昂騰、勞銀高の影響を受け金、銀鑛業沈衰し産出減少したるに因る

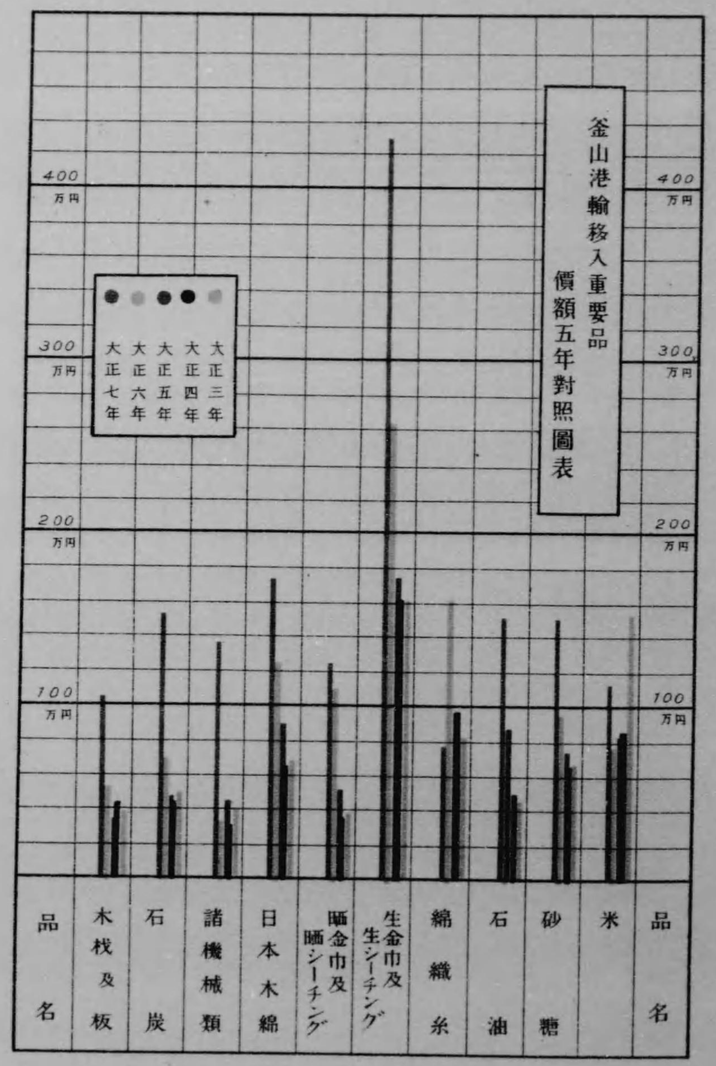
五 輸移入貿易

明治十七年以降大正七年に至る三十五箇年に於て輸移入超過を示したるは明治十七年より二十二年に至る六箇年、同二十七年及二十八年間三十二年並同三十五年より大正三年に至る十三箇年合計二十二箇年にして大正七年に於ける輸移入貿易額三千六百四十萬圓は總貿

易額の三割六分に相當し前年に比し一千百八十八萬圓(約五割)を增加し五年前の大正三年に比すれば實に二倍以上の增進なり之れ米價暴騰に因る外米の入增購買力の增進による砂糖、石油、金巾類及日本木綿の增加、諸工業の勃興に伴ふ機械類、石炭、木材及板の增加等に基くものにして綿織糸等は多少の不振を來したれども尙空前の盛況を呈せり最近五箇年の輸移入重要品價格對照圖表及金銀貨幣及地金の輸移入額對照表左の如し

釜山港輸移入金銀貨幣及同地金價額五年對照表

年次／種別	金貨及同地金	銀貨及同地金	合計
大正七年	一九、四七七円	八、四〇〇円	二七、八七七円
大正六年	二二、〇一八	一二五、〇三七	一四七、〇五五
大正五年	七、八六二	一七九、四三四	一八七、五一六
大正四年	一〇、八六六	二五六、四八三	二六七、三四九



釜山港輸移入重要品價額五年對照表

品名＼年次	大正三年	大正四年	大正五年	大正六年	大正七年
米	一、五四四、八一九円	八五、五九二円	八一、六九八円	五九二、九〇〇円	一、一五三、四八八円
砂糖	六五一、八九一	六三一、四四〇	七六四、〇六〇	九四九、一二八	一、五一六、八三四
石油	四二八、八一八	五〇七、一二八	七〇九、四四二	八八八、〇八九	八九〇、六六七
綿織糸	八〇三、四九四	九七〇、五五七	九六六、七五六	一、六三五、一九七	七八二、八七七
生金巾及生シーチング	一、六一〇、八三八	一、六一二、七九八	一、七六七、四三九	二、六三二、九三〇	四、三一九、〇五八
晒生金及晒シーチング	三八〇、八八〇	三七九、三五七	五三四、七五二	一、一三〇、八九八	一、二四〇、九七三

釜山港輸移入重要品價額五年對照表

品名＼年次	大正三年	大正四年	大正五年	大正六年	大正七年
米	一、五四四、八一九円	八五、五九二円	八一、六九八円	五九二、九〇〇円	一、一五三、四八八円
砂糖	六五一、八九一	六三一、四四〇	七六四、〇六〇	九四九、一二八	一、五一六、八三四
石油	四二八、八一八	五〇七、一二八	七〇九、四四二	八八八、〇八九	八九〇、六六七
綿織糸	八〇三、四九四	九七〇、五五七	九六六、七五六	一、六三五、一九七	七八二、八七七
生金巾及生シーチング	一、六一〇、八三八	一、六一二、七九八	一、七六七、四三九	二、六三二、九三〇	四、三一九、〇五八
晒生金及晒シーチング	三八〇、八八〇	三七九、三五七	五三四、七五二	一、一三〇、八九八	一、二四〇、九七三
日本木綿	七〇九、九六五	六四二、五〇三	九〇八、五六九	一、二八六、九九二	一、七五二、四〇二
諸機械類	二〇七、二三二	一五五、二八一	四三四、八六三	三六七、六七四	一、一九〇、七一九
石炭	四九五、六八〇	四三八、二一二	四六一、三五三	七一九、四六一	一、五四七、七九〇
木材及板	三八五、六六八	四三五、〇九一	三〇〇、〇三〇	五五四、五三四	一、〇五〇、九六三

六　通過貿易

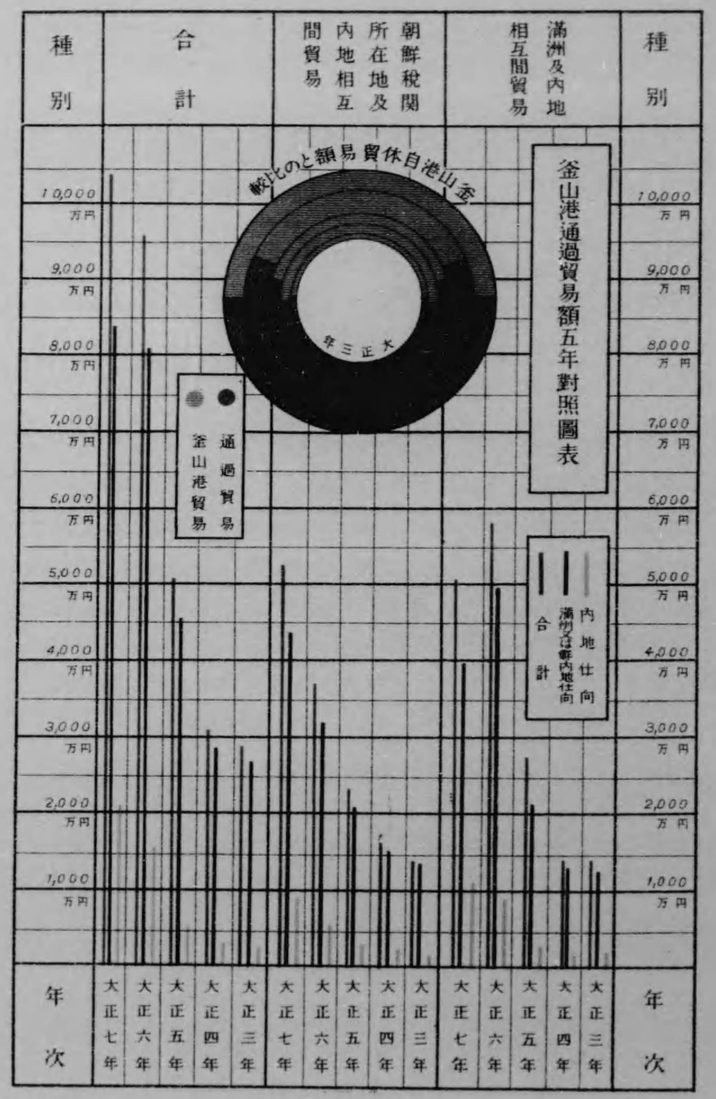
茲に所謂通過貿易とは朝鮮鐵道と內地鐵道との聯帶運送に依り滿洲より內地への輸出、內地より滿洲への輸出、朝鮮稅關所在地(馬山大邱、京城、仁川、群山、木浦、平壤、鎭南浦、新義州及元山)より內地への移出及內地より朝鮮稅關所在地への移出貿易を謂ひ此等は釜山稅關に於て輸移出入手續を履行せされとも船車聯絡上必す本港にて船積又は陸揚を要するか故に其の增減は本港の海陸運輸界に影響するところ尠からす大正七年に於ける通過貿易額は滿洲及內地相互間の貿易額五千六十萬圓朝鮮稅關所在地及內地相互間の貿易額五千三百四十八萬圓合計一億四百九萬圓にして本港の輸移出入貿易額一億百二萬圓を併すれは出入總額二億五百十一萬圓を算し此の總額に對する通過貿易額

露光量違いの為重複撮影

の歩合は五割一分に相當す最近五箇年に於ける對照圖表左の如し

七　沿岸貿易

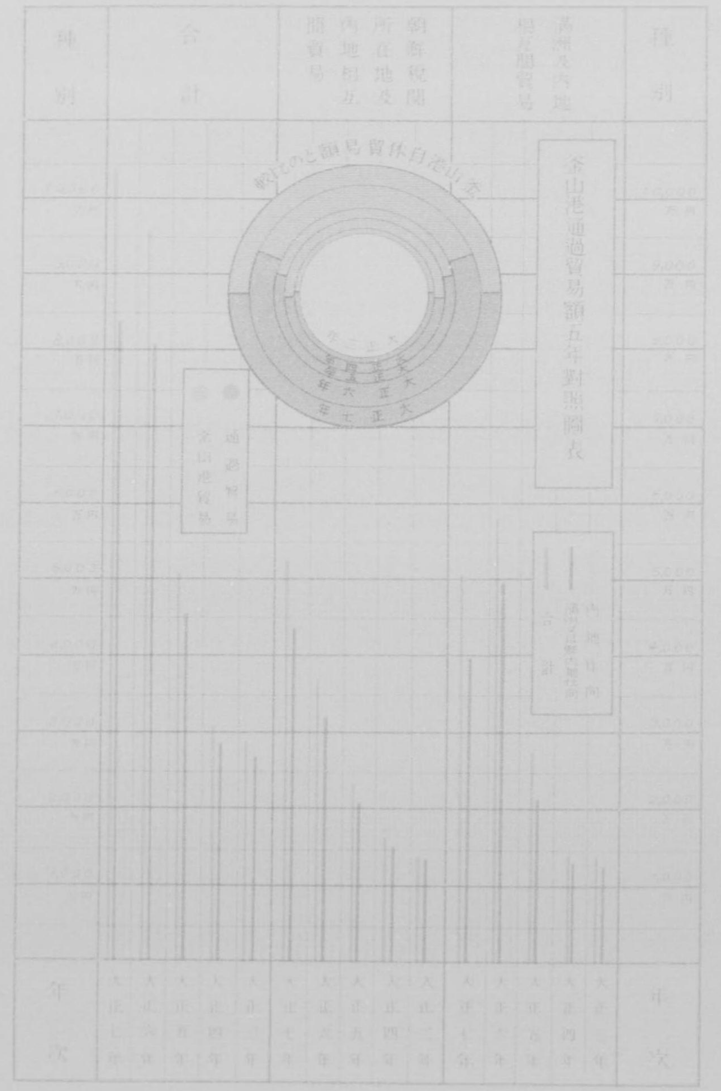
日露戰役後內地人の移住者逐年增加し且つ各府縣爭ふて朝鮮海出漁の奬勵に努めたる爲沿岸島嶼到る處內地人を見さる地なく沿岸貿易も亦從つて發展し其の範圍は各開港及咸鏡北道雄基より全羅南道法聖浦に至る沿岸各不開港を包容し大正七年に於ける貿易額は移出一千三十二萬圓移入一千百九十七萬圓合計二千二百三十萬圓なり開港への移出先は清津(百十五萬圓)馬山(百二萬圓)及鎭海(四十萬圓)不開港への移出先は蔚山(八十五萬圓)浦項(六十二萬圓)及統營(三十九萬圓)開港よりの移入先は馬山(五十五萬圓)元山(四十六萬圓)及清津(三十五萬圓)不開港よりの移入先は浦項(百五十四萬圓)舊馬山(百十萬圓)及麗水(八十六萬圓)を主とす最近二箇年の對照表左の如し



の歩合は五割一分に相當す最近五箇年に於ける對照圖表左の如し

七　沿岸貿易

日露戰役後內地人の移住者逐年增加し且つ各府縣爭ふて朝鮮海出漁の奬勵に努めたる爲沿岸島嶼到る處內地人を見ざる地なく沿岸貿易も亦從つて發展し其の範圍は各開港及咸鏡北道羅津より全羅南道法聖浦に至る沿岸各不開港を包容し大正七年に於ける貿易額は移出一千三十二萬圓移入一千百九十七萬圓合計二千二百三十萬圓なり開港への移出先は清津百十五萬圓(馬山百二萬圓及鎭海四十萬圓)不開港よりの移入先は馬山五十五萬圓(浦項六十二萬圓及統營三十九萬圓)開港よりの移入先は浦項百五十四萬圓(元山四十六萬圓及清津三十五萬圓)不開港を主とす最近二箇年の對照表左の如し



釜山港通過貿易額五年對照表

種別 仕向先 ＼ 年次	大正三年	大正四年	大正五年	大正六年	大正七年

釜山港通過貿易額五年對照表

種別	仕向先	年次	大正三年	大正四年	大正五年	大正六年	大正七年
滿洲及內地相互間貿易	內地仕向		九三一、〇九六円	一、三三八、四五五円	二、八二八、〇八七円	九、一六四、三二九円	一一、五五六、九二三円
	滿洲仕向		一三、五七二、七九六	一三、〇九四、六七九	二四、七五七、四八二	四九、六〇七、三〇六	三九、〇五〇、六三九
	合計		一四、五〇三、八九二	一四、四三三、一三四	二七、五七五、五六九	五八、七七一、五三五	五〇、六〇七、五六二
朝鮮稅關所在地及內地相互間貿易	內地仕向		八〇一、八七二	一、七三一、三五六	二、八八八、一八二	六、一一六、四三一	九、二四三、八五八
	朝鮮稅關所在地仕向		一三、九三〇、二五七	一五、一五三、七四一	二〇、四五四、七八六	三〇、九二八、七〇五	四四、二四二、〇二五
	合計		一四、七三二、二九	一六、八八四、九九七	二三、三四二、九六八	三七、〇四五、一三六	五三、四八五、八八三
合計	內地仕向		一、七三一、九六八	三、〇六九、七二一	五、七〇六、二六九	一五、二八〇、六六〇	二〇、八〇〇、七八一
	滿洲又は朝鮮稅關所在地仕向		二七、五〇三、〇五三	二八、二四八、四二〇	四五、二二二、二六八	八〇、五三六、〇二一	八三、二九二、六六四
	合計		二九、二三六、〇二二	三二、三一八、一三二	五〇、九一八、五三七	九五、八一六、六七二	一〇四、〇九三、四四五
通過貿易			二九、二三六、〇二二円	三一、三一八、一三二円	五〇、九一八、五三七円	九五、八一六、六七二円	一〇四、〇九三、四四五円
自體貿易			二八、七〇四、〇五六	三三、二五四、九九一	三七、九〇三、五六九	五七、七七六、三四四	一〇一、〇二八、八二六
合計			五七、九四〇、〇七七	六三、五七三、一二三	八八、八二二、一〇六	一五三、五九三、〇一五	二〇五、一二二、二七二

釜山港通過貿易額及釜山港自體貿易額五年比較表

釜山港沿岸貿易額二年對照表

港別＼移出入別＼年次	大正七年 移出	大正七年 移入	大正七年 合計	大正八年 移出	大正八年 移入	大正八年 合計
開港	三、九二〇、六八〇円	二、七八九、四三三円	五、七一〇、一一三円	二、〇一一、四四〇円	一、一二三、三三一円	三、一三四、七七一円
不開港	六、四〇八、〇七二	一〇、一八四、九三五	一六、五九三、〇〇六	六、七四八、四〇七	八、一九一、六二九	一四、九四〇、〇三六
合計	一〇、三二八、七五二	二、九七四、三七八	三、三〇三、一二九	八、七五九、八四七	九、三〇三、九六〇	一八、〇八三、八〇八

備考 明治四十五年關稅法規改正後沿岸貿易に對する取締は稅關の管掌を離れたるを以て確實なる統計を得ること能はざるに至りたれは右に掲くる最近二箇年の貿易額も亦直に之を以て正確なりと斷すること難し故に大正七年より十年前なる明治四十二年の沿岸貿易額移出四百七十二萬圓移入三百八十四萬圓合計八百五十七萬圓を基礎とし外國及內地貿易の趨勢と鐵道に依る商業範圍の擴張等とに鑑み仔細に之を

調査せは大正七年の沿岸貿易額は或は三千五百萬圓を超過するにあらさるか

八　入出港外國貿易船及內地間貿易船

大正七年中本港に入港したる外國貿易船及內地間貿易船は四千六百十二艘百三十四萬三百二十二噸にして艘數に於て前年に比し七百三十七艘五年前大正三年に比し一千二百三十七艘を增加せしに拘らす噸數に於て前年に比し五萬二千六百十三噸五年前大正三年に比し四十六萬千三十噸を減退せしは歐洲戰亂に基く船腹不足の爲朝鮮方面へは專ら小型船舶を回航したるに起因す最近二箇年の入出港外國及內地間貿易船別艘數及噸數對照表及最近五箇年の入出港外國及內地間貿易船噸數對照圖表左の如し

釜山港入出港外國及內地間貿易船艘數及噸數二年對照表

年次	大正七年				大正六年			
入出港別	入港		出港		入港		出港	
船類	艘數	噸數	艘數	噸數	艘數	噸數	艘數	噸數
外國貿易船 汽船	九五	五七、三四四	九三	五六、七二四	一四〇	二九、六七六	一三七	二三、四六三
帆船	四八	六、三八七	四〇	五、五四〇	三八	三、四〇八	三一	一、七〇二
ジャンク	—	—	—	—	二	九	—	—
計	一四三	六三、七三一	一三三	六二、二六四	一八〇	一三三、〇九三	一六九	二六、一六三
內地間貿易船 汽船	一、六四三	一、三〇八、〇一六	一、五九九	一、一八八、三三四	一、四五八	一、一二三、八〇六	一、四七三	一、二二八、六一二
帆船	一、九九六	六一、一六二	一、八五七	五五、六五七	一、四二二	三八、四五四	一、二二〇	三五、六五四
ジャンク	八三〇	七、三一四	七二四	六、七八九	七八六	八、五八二	六六六	八、四八九
計	四、四六九	一、二七六、五九一	四、一八〇	一、二五〇、六八〇	三、六九五	一、二五九、八四三	三、三九八	一、二五六、七五五
合計 汽船	一、七三八	一、二六五、三六〇	一、六九二	一、二四四、九九八	一、六二八	一、三四二、四八二	一、六〇九	一、三三六、〇七五
帆船	二、〇四四	六七、六四八	一、八九七	六一、一九七	一、四五九	四一、八八三	一、二五二	三八、三二六

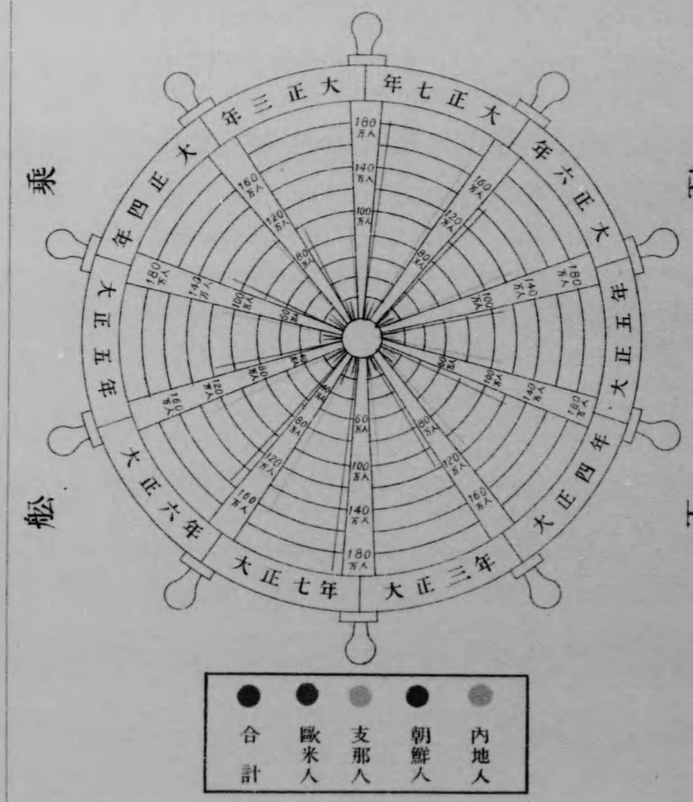
計	計	四、六三一、三三〇	四、三三一、三三二、九四四	三、八三五、一、五九二、九三五	三、五三七、一、三八二、九三〇	六六六	八、四八九
	ジャンク	八三〇	五、三三四	六、七八九	七九八	八、五九二	六六六

九　對外出入貨物

大正七年に於ける本港の對外出入貨物即輸移出貨物、輸移入貨物、運送外國貨物、運送內國貨物積戻貨物及通過貨物の總噸量は百五十九萬噸にして之を五年前大正三年の七十六萬噸に比すれは二倍以上十年前明治四十二年の四十萬噸に比すれは實に約四倍の增加を示せり

而して價額の增加率と比較して同率の增加を示さゝるは主として物價騰貴に起因するものと認めさるへからす玆に運送外國貨物とは輸移入手數未濟貨物を鮮內稅關所在地に發送したるもの、運送內國貨物とは外國又は內地朝鮮間貿易船に依り鮮內各港間に發着したるもの、積戻貨物とは通過貨物にあらさる輸移入未濟貨物及輸移出手數濟

釜山港來往旅客
五年對照圖表



釜山港入港外國及內地間貿易船噸數五年對照表

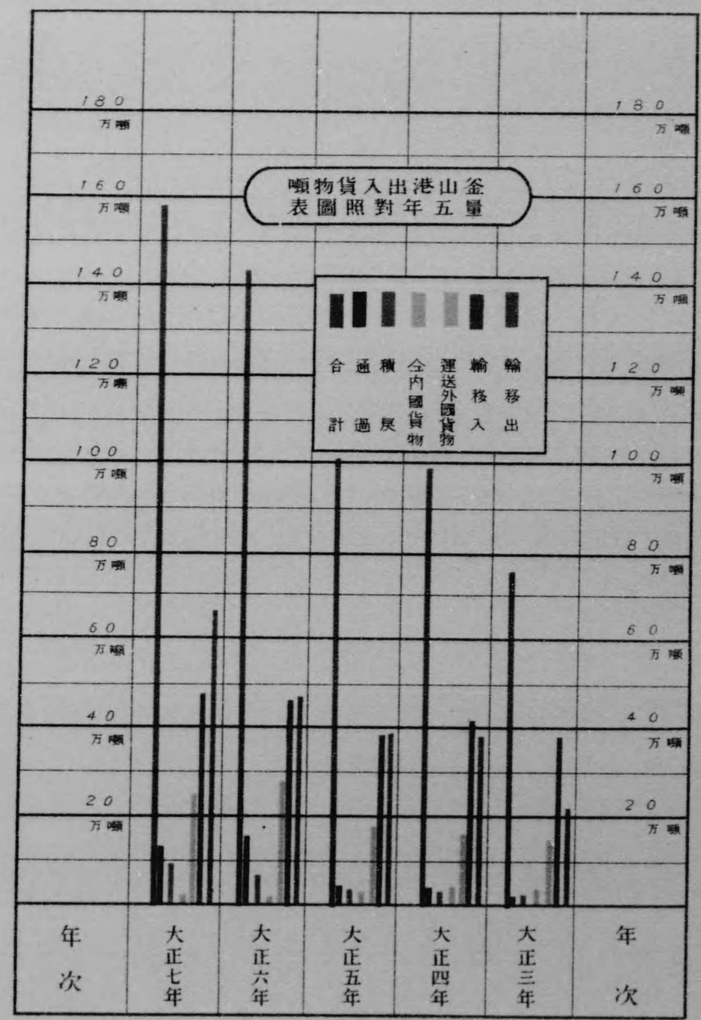
船種＼年次	大正三年	大正四年	大正五年	大正六年	大正七年
汽船	一、七五二、三一九噸	一、七二八、九〇七噸	一、四五六、五九七噸	一、三四二、四八二噸	一、二六五、三六〇噸
帆船	三九、三二六	四一、八八四	三四、〇五三	四一、八六二	六七、六四八

釜山港入港外國及內地間貿易船噸數五年對照表

船種＼年次	大正三年	大正四年	大正五年	大正六年	大正七年
汽船	一、七五二、三一九噸	一、七二八、九〇七噸	一、四五六、五九七噸	一、三四二、四八二噸	一、二六五、三六〇噸
帆船	三九、三二六	四一、八八四	三四、〇五三	四一、八六二	六七、六四八
ジヤンク	九、七〇七	一〇、四九八	八、二二〇	八、五九一	七、三一四
合計	一、八〇一、三五二	一、七八一、二八九	一、四九八、八七〇	一、三九二、九三五	一、三四〇、三二二

釜山港出港外國及內地間貿易船噸數五年對照表

船種＼年次	大正三年	大正四年	大正五年	大正六年	大正七年
汽船	一、七二三、九五〇噸	一、六七五、〇〇一噸	一、四三八、三三五噸	一、三三六、〇七五噸	一、二四四、九五八噸
帆船	三六、四一三	三七、二二五	三一、八三九	三八、三五六	六一、一九七
ジヤンク	九、五六二	九、一六〇	七、五九六	八、四八九	六、七八九
合計	一、七六九、九二五	一、七二一、三八六	一、四七七、七七〇	一、三八二、九二〇	一、三一二、九四四


釜山港出入貨物噸
量五年對照圖表
輸移出
輸移入
運送外國貨物
金內國貨物
積戻
通過
合計
180 万噸
160 万噸
140 万噸
120 万噸
100 万噸
80 万噸
60 万噸
40 万噸
20 万噸
年次
大正七年
大正六年
大正五年
大正四年
大正三年
年次

釜山港出入貨物噸量五年對照表

種別＼年次	大正三年	大正四年	大正五年	大正六年	大正七年
輸移出貨物	二〇五、五九一噸	三七九、七五八噸	三八四、五八五噸	四七六、五三〇噸	六六一、五六三噸
輸移入貨物	三八四、九六〇	四一七、二三八	三八三、〇九〇	四七〇、一六五	四七九、三五三
運送外國貨物	一三六、五五五	一三六、八〇三	一七七、八九三	二三八、八六八	二一五、二九二
運送內地貨物	二五、〇二四	二三、八一四	二三、七三九	一三、三四一	一一、七六九
積戾貨物	七、六二七	一八、七七〇	二三、三九二	七五、九三〇	九五、三三〇
通過貨物	七、四九四	二三、一八七	三六、七五九	一五九、八七七	一二九、七五三
合計	七六七、二五一	九九九、五七〇	一、〇二九、四五八	一、四三四、七一一	一、五九三、〇六〇

貨物を朝鮮外に積出するもの、通過貨物とは外國貨物にして陸路に依り朝鮮を通過するに當り積戻手續をなしたるものを謂ふ最近五箇年の出入貨物噸量對照圖表左の如し

一〇　來往旅客

本港に於ける來往旅客の大部分は關釜聯絡船に由るものにして其の他は殆と數ふるに足らす大正七年中の上陸客は十八萬二千人乘船客は十九萬五千人にして滿洲、支那、西伯利方面と內地相互間の旅客は時局の影響に依り近來特に激增せり最近五箇年の來往旅客對照圖表左の如し

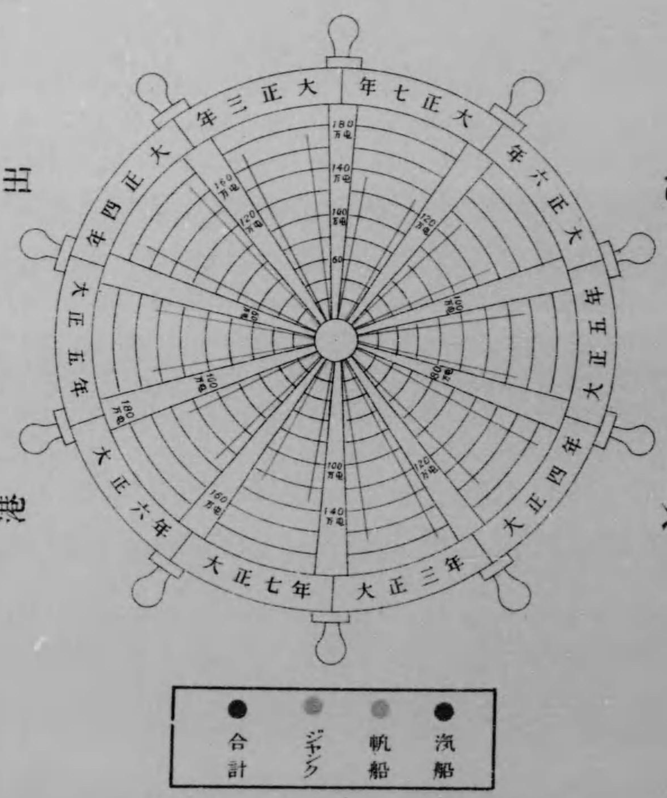
一一　貿易關係官廳

釜山稅關　明治十六年七月二十五日日韓兩國間に締結したる日本

人民貿易規則に基き同年十一月三日當時既に開港場たりし釜山、仁川、及元山に海關を設け英國人初めて釜山海關長に就任したり之れ釜山稅關の起源にして今の水產製品檢査所は當時の海關廳舍の一部なり明治三十九年に至り日本人海關長傭聘せられ明治四十年に至り海關を稅關と改稱し同四十三年八月日韓併合と共に朝鮮總督府稅關となり明治四十四年十月現在廳舍に移轉し以て今日に及へり

稅關は庶務、稅務、監視及檢査の四課に分課せられ稅關長の外百二十七人の職員を以て關稅、噸稅、移入稅、稅關諸收入、消費稅及其の交付金、保稅倉庫、船舶及貨物取締、輸移出海藻及水產製品檢査並輸移入苗木類消毒關係事項等を掌る管轄區域は慶尙南道、慶尙北道及全羅南道にして支署を馬山、鎭海、及木浦に出張所を大邱に派出所を棧橋に監視署を浦項、蔚山、長承浦、統營、三千浦、麗水及城山浦に水產製品檢査所を釜山、浦項鬱陵島、統營、麗水、及城山浦に設置す此外蔚山、及大黑山島捕鯨根據地、大

釜山入出港外國及內地間
貿易舩噸數五年對照圖表



釜山港上陸客五年對照表

年次＼人種	大正三年	大正四年	大正五年	大正六年	大正七年
內地人	一一二、三四五人	一一七、五一六人	一一三、七三九人	一三〇、〇八〇人	一六一、六七三人
朝鮮人	二、七〇三	二、三〇五	二、五一五	六、五一六	一五、四七九
支那人	四七七	四三四	四八五	一、〇八五	一、五五三

釜山港上陸客五年對照表

人種＼年次	大正三年	大正四年	大正五年	大正六年	大正七年
內地人	一一二、三四五人	一一七、五一六人	一一三、七三九人	一三〇、〇八〇人	一六一、六七三人
朝鮮人	二、七〇三	二、三〇五	二、五一五	六、五一六	一五、四七九
支那人	四七七	四三四	四八五	一、〇八五	一、五五三
歐米人	一、二〇七	一、一六〇	一、四七四	三、五一九	三、三〇九
合計	一一六、七三二	一二一、四一五	一一八、二一三	一四一、二〇〇	一八二、〇一四

釜山港乘船客對照表

人種＼年次	大正三年	大正四年	大正五年	大正六年	大正七年
內地人	九三、〇一一人	一〇〇、八〇〇人	一〇七、七四九人	一三一、八八八人	一六五、九九一人
朝鮮人	一、五一三	二、〇二六	三、二五六	一九、九五二	二四、四〇五
支那人	二四五	三六九	五〇一	一、二九三	二、〇八八
歐米人	一、〇一〇	一、五三七	三、五〇〇	三、一八四	二、六八五
合計	九五、七七九	一〇四、七三二	一一五、〇〇六	一五六、三一七	一九五、一六九

黑山島旭硝子株式會社硅砂積出地、鐵道院所屬關釜聯絡船內及其の積卸貨物通關特殊取扱場所、南滿洲鐵道株式會社京城管理局釜山驛構內及同局釜山鎭埋築地特許地、釜山名出私設保稅倉庫及朝鮮郵船株式會社元釜山棧橋株式會社棧橋基部、九龍浦、甘浦、方魚津、長承浦、統營、彌助里、麗水及巨文島各移出水產物常時派出檢査場所には夫々一人乃至八人總計三十三人の監視及監吏を常時駐派して各種の事務を處辨せしむ

移出牛檢疫所　本港より內地に移出する畜牛(食用牛を除く)に對しては牛疫の檢疫を受け嚴原、長崎、下關、神戸又は橫濱に直航せさるへからす本所は之か爲に設けられたるものにして明治四十二年の創設に係り港內東萊郡西面牛巖里にあり事務室、診斷所、監視所、牛舍(四十舍一舍に付六十頭を收容す)飼料調理場、飼料倉庫、消毒室、隔離室、燒却所及木製棧橋等の設備を有し釜山警察署之を所管す、最近三箇年の牛舍入出頭數左の如し

移出牛檢疫所牛舍入出頭數三年對照表

年次	大正七年		大正六年		大正五年	
入出別	入舍	解放	入舍	解放	入舍	解放
頭數	三一、二一六	三一、五〇六	二四、四五六	二三、六七〇	一四、八二二	一四、四二二

慶尙南道米穀檢査所　高島町にあり米穀檢査規則に依り輸移出玄米の檢査を施行し不合格品の輸移出及他道への搬出を禁し白米及中白米に對しては必要に應して之を檢査し玄米と同一の取締をなす

慶尙南道大豆檢査所　前項米穀檢査所と同構内にあり大豆檢査規則に依り輸移出大豆の檢査を施行し不合格品に對しては米穀と同一の取締をなす

露國領事館　本町五丁目にあり大正三年に從來馬山に設置せる領事館を當地に移し廳舍新築の豫定なりしか時恰も歐洲戰亂の勃發に

際會し敷地地均工事のみに止め今尙假廳舍に於て執務しつゝあり

中華民國領事官　明治十五年の開廳にして草梁洞にあり同所附近は俗に之を支那町と稱し嘗て支那專管居留地なりしか明治四十三年に至り其の條約を撤廢せり大正七年末に於ける在留支那人は四十五戸百八十七人(男百五十一人女三十六人)なり

一二　貿易關係會社及團體竝稅關

貨物取扱人

銀行及金融組合　株式會社朝鮮銀行、同殖產銀行、同第一銀行、同十八銀行、同百三十銀行、同漢城銀行の各釜山支店、同日本勸業銀行、同長崎貯蓄銀行の各釜山代理店、同釜山商業銀行、同慶南銀行、釜山第一金融組合及同第二金融組合あり第一銀行支店は明治十一年の創立に係り本港最古の金融機關にして朝鮮銀行支店は一般銀行業務の外國庫金の取

扱をなし金融組合は最近設立せれたるものにして組合員に對し經濟の發展に必要なる資金の貸付其の他金融の緩和を企圖する諸般の業務を營みつゝあり斯の如く本港の金融機關は既に十指を屈して尙餘あるに至り資金の融通亦從つて活潑なり

倉庫業　前章に記載せるか如く朝鮮興業株式會社、釜山支店、釜山共同倉庫株式會社、伊藤合資會社、彰興倉庫株式會社、南滿洲鐵道株式會社京城管理局及大池商店の經營に係る六營業倉庫あり現在の坪數は合計五千九百二十五坪なり

海上及火災保險業　本港に於ける海上保險業は明治十三年東京海上保險株式會社か第一銀行支店に火災保險業は明治二十五年日本火災保險株式會社か十八銀行支店に其代理店を托したるを以て濫觴とし今や海上保險會社代理店十箇所火災保險會社代理店十八箇所を算するに到れり

市場　釜山穀物市場(明治三十九年創立)、釜山水產株式會社所屬魚市場(明治二十二年創立)及釜山食糧品株式會社所屬食糧品市場(明治四十年創立)等あり穀物市場は釜山穀物商組合員、釜山穀物輸出商組合員及會員に限り魚市場及食糧品市場は各會社承認の仲買人に限り取引すへき申合あり

商業會議所　釜山商業會議所は明治十二年の創立に係り商業の改善發達に必要なる方案及其の狀況竝統計の調査發表等をなす其の附屬として釜山商品陳列館及礦產館を有す現行職員及議員定員其の他左の如し

職員、書記長一、書記六、議員、評議員三〇、特別評議員五、一箇年經費一一、〇〇〇圓

同業組合　本港には三十四箇の同業組合あり內貿易に直接の關係を有するものは釜山重要海產商組合(明治三十八年創立)、釜山穀物輸出

商組合(同年創立)、釜山牛皮輸出商組合(同三十九年創立)、釜山活牛賣買同業組合(同四十二年創立)、釜山輸入商組合(同四十三年創立)、釜山重要海產物問屋組合(同四十四年創立)、釜山船舶問屋業組合(同年創立)及釜山輸入酒類商組合(明治四十五年創立)等なり

稅關貨物取扱人　大正八年九月末現在釜山稅關貨物取扱人左の如し但し左記の外仍釜山驛及鐵道院門司鐵道管理局下關運輸事務所釜山派出所に於ては無料を以て受托貨物(關釜聯絡船に依る釜山地發移出大貨物を除く)の通關手續をなしつゝあり

內國通運株式會社釜山支店通關係	吉本天祥　高島町
株式會社釜山商船組通關部	萩野彌左衛門　同
澤山兄弟商會通關部	澤山喜多路　大倉町
問屋組合通關所	阪田文吉　高島町
岩橋通關運送本店通關係	岩橋一郎　同

大池通關部	大池忠助　同
植村通關所	植村久三郎　同

第三　交通運輸

一　外國及內地航路竝主要各港間浬程

外國航路　玆に外國航路と稱するは外國及本港間航路竝外國を起點又は終點として本港に寄航する航路を謂ふ此の定期航路には嘗て明治三十六七年の交日本郵船株式會社(使用汽船博愛丸及山城丸)竝露國東淸鐵道會社(同ズンガリー號、ムクデン號及外一艘)の上海浦塩線に於て前者は一箇月二回後者は一箇月四回寄航せしことあれとも日露戰役以來中絕し其の後本港に寄航せし大阪商船株式會社の長崎大連線も亦歐洲戰亂の爲休航するに至り今日に於ては朝鮮郵船株式會社

經營に係る大阪浦鹽航路汽船(使用船二艘)か一箇月六回寄航するのみ此他臨時船として青島より入港する食鹽積載船は大正六七年に於て各二十三臾を算し石油及機械類積載船は一年數回米國等より入港す

關釜航路　本航路は京釜鐵道開通後明治三十八年九月山陽鐵道株式會社か汽船二臾を以て毎日一回の定期航海を計劃し同年九月十一日壹岐丸の入港せるに起り後鐵道院の所管に歸し現今高麗丸(總噸數三千二十八噸)、新羅丸(同三千三十二噸)、壹岐丸(同一千六百噸)、對馬丸(同一千六百二噸)及博愛丸(同二千六百二十九噸)を以て專ら旅客の交通に充て毎日朝夕二回入港第一棧橋に繫留し十歩を出てすして朝鮮鐵道の旅客列車に接續せしめ別に多喜丸(總噸數一千二百二十七噸)及山光丸(同八百四十五噸)を以て貨物專用船となし一箇月各十回入港第二棧橋に繫留し釜山地發着及聯帶運送貨物の輸送をなさしめつゝあり旅客專用船内に於ては釜山及門司税關官吏、檢疫醫官並郵便局員乘船し航

海中に於て旅客携帶品檢査、檢疫及一般郵便並無線電信事務を執行し其の他手數料を以て朝鮮銀行兌換劵を日本貨幣に交換をなす等諸般の設備至らさるなし本航路開始以來の乘降旅客左の如し

關釜聯絡船乘降旅客自明治三十八年度至大正七年度十四年對照表

年次	上陸客	乘船客	年次	上陸客	乘船客
明治三十八年度	一七、四七一人	九、五三八人	大正元年度	一〇五、三六八人	九六、〇九六人
同　三十九年度	四八、五二一	四四、一六二	同　二年度	一〇九、九五五	九三、〇二〇
同　四十年度	五二、九六〇	五〇、〇七九	同　三年度	九九、七六四	九六、四九九
同　四十一年度	六三、〇九六	五六、九四五	同　四年度	一〇三、七五五	一〇〇、三七三
同　四十二年度	六三、三六五	五五、七三五	同　五年度	一〇三、八五七	一一、六八二
同　四十三年度	七三、九七三	六三、八八四	同　六年度	一二三、三九五	一四五、四五三
同　四十四年度	九一、三四九	八〇、九二六	同　七年度	一三三、七一八	一三八、四〇六

其の他の内地航路　日鮮間の定期航路は明治九年本港の開港と相俟ちて三菱會社汽船浪華號か毎月一回入港せしを始めとす現今の定期航路左の如し

大阪商船株式會社大阪清津線一箇月六回入港　（使用汽船二艘）
互光商會大阪清津線同三回入港　（同　一艘）
尼ヶ崎兄弟汽船合資會社大阪仁川線同十二回入港（同　四艘）
朝鮮郵船株式會社門司雄基線同十二回入港　（同　四艘）
對馬運輸株式會社博多釜山線同六回入港　（同　一艘）

外國主要各港間浬程左の如し

釜山より　倫敦　に至る　門司經由　一〇、九六二浬（陸路ペトログラード經由　六、九三四哩）
紐育　同　一〇、二三五浬
桑港　同　五、一四八浬（石油又は機械類を積載せる船舶、一年數回入港す）
香港　直航　一、一六五浬

上海　同　四九六浬
青島　同　四七九浬
大連　同　五二七浬
安東　同　五五二浬
浦鹽　同　五〇九浬

内地主要各港間浬程左の如し

釜山より　長崎に至る　直航　一六二浬
門司　同　一二五浬
神戸　同　三六四浬
大阪　同　三七二浬
横濱　同　六九九浬
函館　同　六九二浬

二　沿岸航路及主要各港間浬程

朝鮮開港間沿岸航路　本港と他の朝鮮開港間の沿岸航路は主として日本郵船株式會社、大阪商船株式會社、朝鮮郵船株式會社及尼ヶ崎兄弟汽船合資會社に依りて經營せられたるか船腹不足の爲歐洲大戰以前の如き盛況を呈せす現今は大阪商船及互光商會の大阪清津線並朝鮮郵船の大阪、浦鹽線及門司雄基線に依りて元山、城津及清津間の交通運輸を又尼ヶ崎汽船の大阪仁川線に依りて木浦、群山及仁川間の交通運輸を便しつゝあり

不開港間沿岸航路　本港と不開港間の沿岸貿易は始め朝鮮蓬船に依るのみにして定期航海をなすものなかりしか明治四十一年に至り釜山汽船株式會社成立し主として不開港間の沿岸航路を開き後松江合同汽船會社の沿岸航路汽船を合同買收し明治四十五年元山及木浦の沿岸航路經營者と合同して新に朝鮮郵船株式會社を創立し著々航

路の改善擴張を計り以て今日に及へり本港を起點とする現今の定期航路左の如し

朝鮮郵船株式會社釜山浦項線一箇月三十回出港		(使用汽船二艘)
同釜山鬱陵島線同五回出港		(同　一艘)
同釜山麗水線同三十回出港		(同　三艘)
同釜山濟州島線同五回出港		(同　一艘)
澤山兄弟商會釜山馬山線同三十回出港		(同　一艘)
同釜山筏橋線同五回出港		(使用補助機關附帆船一艘)
釜統汽船組合釜山統營線同三十回出航		(使用汽船二艘)
金谷一二釜山筏橋線同五回出港		(使用補助機關附帆船一艘)

朝船開港間浬程左の如し

釜山より	元山に至る直航	二九六浬
城津同		三二九浬

清津同　四一二浬
木浦同　二一〇浬
群山木浦經由　三〇二浬
仁川群山外經由　四一四浬
鎭南浦直航　四九五浬

朝鮮主要不開港間浬程左の如し

釜山より方魚津に至る長生浦經由　三八浬
浦項同　八六浬
升邊丑山浦經由　一四八浬
鬱陵島竹邊外經由　二二四浬
西湖津元山經由　三三八浬
雄基清津外經由　五六五浬
鎭海直航路　二八浬

馬山同　三七浬
統營島外經由　六四浬
長承浦直航路　二三浬
麗水同　七八浬
三千浦統營外經由　九一浬
巨文島麗水經由　一二七浬
城山浦巨文島外經由　一六八浬
大黑山島木浦經由　二六六浬
法聖浦同　二六〇浬

三　港內使用汽艇、艀船、給水船及通船

本港に於ける港內使用汽艇は官有船十隻二百六十五噸民有船十四隻二百九十三噸合計二十四隻五百五十八噸にして貨物用艀船は官有

船五十八隻九百四十噸民有船百五十九隻七千四百五噸合計二百十七隻八千三百四十五噸給水船五艘旅客用通船十一積あり艀船の内譯左の如し

百二十五噸積　二　艘
百十五噸積　二　艘　二艘共艙船
九十五噸積　七　艘
八十噸積　二　艘
七十五噸積　三　艘
七十噸積　十一　艘　内二艘艙船
六十五噸積　一　艘
六十噸積　十三　艘
五十五噸積　三　艘
五十噸積　三十七　艘　内十一艘鐵道院所屬

四十五噸積　一　艘
四十噸積　二十八　艘　内四艘鐵道院所屬
三十五噸積　二十三　艘　内一艘艙船
三十噸積　十八　艘
二十五噸積　六　艘
二十噸積　十二　艘
十五噸積　一　艘
十噸積　七　艘　内三艘陸軍運輸部所屬
五噸積　四十　艘　全部土木部所屬
計　二百十七艘

四　穀物運賃及一般貨物艀賃

穀物運賃　歐洲大戰前百石に付三十圓を出てさりし本港阪神間穀

物運賃は大正六年に於て百八十圓に暴騰せしも休戰條約成立後俄に低落して今大正八年七月には百圓を唱ふるに至れり其の變遷左の如し

大正三年中	三十圓	大正七年一月改正	百四十六圓
同 四年九月改正	三十五圓	同 七年一月再改正	百三十圓
同 四年十一月改正	三十八圓	同 七年七月改正	百三十六圓
同 五年四月改正	四十五圓	同 七年十月改正	百五十圓
同 五年十二月改正	七十圓	同 八年一月改正	百三十圓
同 六年七月改正	九十圓	同 八年三月改正	九十九圓
同 六年十月改正	百八十圓	同 八年四月改正	九十圓
同 六年十二月改正	百五十圓	同 八年七月改正	百圓

一般貨物艀賃　本港の一般貨物に對する最近標準艀賃左の如し但し船積及船卸共同率にして南濱、牧ノ島、草梁及釜山鎮方面は其の二割

増なり

穀物	百石　十三圓	叭 五斗入三十五枚	一個　三十錢
石炭	一噸　八十錢	セメント大樽	一樽　十五錢
砂糖	一俵　八錢	晒金巾 三十反入	一梱　二十八錢
麥酒	一箱　十錢	紡績糸 二十玉入	一梱　二十錢
燐寸	二ッ合一個　十五錢	雜貨 四十才又は一千五百斤	一圓
清酒	菰包大樽一樽　十五錢	重量品	一噸　雜貨の二倍又は三倍見當

五　鐵道及主要各驛間哩程

鐵道　本港草梁を起點とし永登浦に至る二百六十七哩間廣軌四呎八吋半の京釜線は日清戰役中明治二十七年八月二十日日韓兩國間に協定せられたる暫定合同條欵に基き京釜鐵道株式會社に依りて敷設せられ明治三十八年一月其の營業を開始せしか後統監府の買收する

所となり四十一年四月軌條を草梁より釜山に延長して釜山驛を新設し四十五年六月更に之を第一釜棧橋沿突堤に導きて從來多少の不便を免れさりし關釜聯絡船との船車聯絡を完からしめ同時に長春京城間に限られたる滿鮮直通列車を本港に延長せしめたるを以て陸上交通頓に其の面目を革め又從來草梁驛に於て接續せる通過貨物は大正七年七月第二棧橋使用開始と共に同棧橋に於て接續せしむるに至りたれは貨物運送上大なる利便を加へたり現今南滿洲鐵道株式會社京城管理局の管理に屬し車輛はボギー式を用ひ客車は廣濶壯麗貨車亦長大にして一輛克く二十六噸を搭載す近年船腹不足船運賃暴騰等の爲朝鮮各港の貨物にして鐵道に依り本港に集散するもの激增したる爲發着貨客著しく增加せしを以て大正八年八月には古舘驛を新設するに至り目下敷設中なる新線路の竣成と共に明年一月より營業開始の豫定なり其の結果或は草梁驛に於ては旅客の取扱を釜山鎮驛に於

ては貨物の取扱を廢止すへしと云ふ大正七年の三驛(釜山草梁及釜山鎮)發着貨物(釜山驛に於ける通過貨物を含ます)は發送十六萬七千噸到着三十一萬二千噸にして乘降旅客(釜山驛に於ける通過旅客を含ます)は乘車二十九萬四千人(出征軍隊を含む)降車二十二萬七千人なり最近三箇年の發着貨物及乘降旅客對照表左の如し

釜山港鐵道貨物發着噸數三年對照表(重量噸)

驛名	發着別	大正七年度			大正六年度			大正五年度		
	年次	發送	到着	計	發送	到着	計	發送	到着	計
釜山	自驛發着	一三一、九八二	二三一、七八二	三六三、七六三	六五、九四七	一四一、四八九	二〇七、四三六	五〇、四〇〇	一〇一、四四四	一五一、八四四
	通過	九九、四七五	一六六、七〇〇	二六六、一七五	一〇六、六一三	二一六、二四七	三二二、八六〇	九二、一二六	一四八、一四八	二四〇、二七四
	計	二三二、四五七	三九八、四八一	六二九、九三八	一七二、五六〇	三五七、七三六	五三〇、二九六	一四二、五二六	二四九、五九二	三九二、一一八
草梁	自驛發着	三四、四九二	六九、六九六	一〇四、一八八	二三、九五八	五〇、八九四	七四、八五二	一一、七二二	二三、二四七	三四、九六九

釜山港鐵道旅客乘降數三年對照表

年次	大正七年度			大正六年度			大正五年度		
驛名 / 類別 / 乘降別	乘車降車			乘車降車			乘車降車		
釜山鎭 同	一、二七六	一〇、五七一	二、八四七	一、四七六	六、六六五	八、一四一	七二一	一、七〇六	二、四一七
合計 同	一六七、七五〇	三一七、〇四八	四七九、七九八	九一、三八一	一九九、〇四八	二九〇、四二九	六二一、八三三	一二六、一五九七	一八九、三三〇
通過	九九、四七五	一六六、七〇〇	二六六、一七五	一〇六、六一三	二二六、一四七	三三二、八六〇	九二、一二六	一四八、一一八	二四〇、二七四
計	二六七、三三五	四七八、七四八	七四五、九七三	一九七、九九四	四一五、二九五	六一三、二八九	一五四、九五九	二七四、五四五	四二九、五〇四
釜山 自驛發着	一八三、一六七	二一四、六四三	一二二、一二三	八四、九六二	七〇、四八九	八八、四六三	七一、九四八	六〇、三七三	一四四、一九四
通過	二一〇、七一七	八八、二二三	一〇〇、七六三	八四、九六二	七〇、四八九	八八、四六三	七一、九四八	六〇、三七三	一四四、一九四
計	二九三、八八四	二〇三、八五六	二二二、一二六	一九七、〇七四	一七一、二五三	一六〇、四一一	一四四、五六七	一二〇、七五三	二六、七五三
草梁 自驛發着	四五、五三三	四七、三三八	四四、七九四	四五、四三九	三五、三三三	三四、四五二	三四、四五二	二八、七八四	二六、七五三
釜山鎭 同	六六、二七四	六五、六三〇	四一、四四八	三九、四四一	二八、七八四	二六、七五三			

合計			
同	二九四、九七三	二三七、六一二	一九八、三五四
通過	二一〇、七一七	八八、二二三	八四、九六二
計	四〇五、六九〇	三一五、八二四	二八三、三二六

一八五、六四三	一五二、五八〇	一四五、四〇四	二二四、五二八
七〇、四八九	七一、九四八	六〇、三七三	二〇五、七七七

朝鮮主要各驛間哩程 釜山驛より朝鮮主要各驛に至る哩程左の如し

馬山に至る	五五、四哩	仁川	三〇四、七哩
大邱	七七、六哩	元山	四二一、〇哩
太田	一七六、七哩	平壤	四四五、三哩
群山	二四六、一哩	鎭南浦	四八九、六哩
木浦	三三八、四哩	新義州	五九一、九哩
京城	二八〇、六哩		

滿洲及關東州主要各驛間哩程 釜山驛より滿洲及關東州主要各驛に至る哩程左の如し

安東に至る五九三、六哩
撫順　七八〇、七哩
奉天　七六三、八哩
哈爾賓へ　一、一〇一哩
長春　九五三、二哩
營口　八七五、三哩
大連　一、〇一〇、二哩
イルクツク　二、六三四哩

六　牛車、荷馬車及荷車

牛車　牛車は二百十九輛あり一輛の積載量は四斗叺十六七個雜貨三百貫にして貿易の發展に伴ひ逐年增加しつゝあり最近釜山に於ける牛車組及牛車數左の如し

營業者氏名	車數	營業者氏名	車數
中塚金次郎	九	川辻萬助	二
可部靜子	三	久保八助	六
秩吉十七六	五	志熊角之進	五
山川惣次郎	八	澁谷國三郎	七
馬場源一	五	西依音次郎	六
倉原兵三郎	一四	富田省三	四
藤田富藏	六	星出德助	九
今井辰次郎	九	戸川元吉	八
中庭巳之助	五	古江與次郎	四

荷馬車　荷馬車は三十三輛あり積載量牛車に同し

荷車　十年前に於て百輛を出てさりし本港の荷車は出入貨物の激增と共に今や一千二百四十一輛を算するに至れり一輛の積載量は四斗叺十二三個雜貨二百貫以内とす

七　交通運輸關係官廳及鐵道關係各機關

絕影島燈臺　大正四年四月一日以來朝鮮船舶通過及信號に關する通報事務を取扱ひつゝあり但し夜間通過の信號は之か取扱をなさす

鐵道院門司鐵道管理局下關運輸事務所釜山派出所　第一棧橋沿突堤上にあり明治三十八年山陽鐵道株式會社か關釜聯絡船開航當時設置したる釜山聯絡事務所の後身にして關釜聯絡船に依る貨客事務の取扱をなせり

陸軍運輸部釜山支部　大廳町一丁目にあり專ら兵馬糧秣の船舶及鐵道輸送に關する事務を鞅掌せり

釜山臨時鐵道線區司令部　本部は西伯利出兵に際し臨時に特設せられたるものに係り草梁驛構內にあり參謀本部に直屬し兵馬の鐵道輸送事務を管掌す

鐵道關係各機關　釜山驛は高島町にあり其の構造壯大にして樓上を以て鐵道旅館を兼營す南滿洲鐵道株式會社京城管理局運輸課釜山派出員詰所は驛に隣して其の構內にあり草梁驛は草梁洞にあり滿鐵京城管理局計理課草梁派出員詰所、草梁保線係、草梁工場、草梁關庫及軍事輸送係は同構內なり釜山鎭驛は凡一洞にあり東萊溫泉場に至る輕便鐵道に聯絡す大正八年八月新築せる古館驛は九年一月より營業開始の豫定なり鐵道小荷物取扱所は市內辨天町にあり發送荷物の受托に當り居れり

八　海運業者、運送業者、稅關構內貨物運搬業者及水先業者

海運業者　本港に於ける主なる海運業者左の如し

大阪商船株式會社釜山支店　高島町

朝鮮郵船株式會社釜山支店　佐藤町